

長峰地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 2

# 内野熊山 1

—内野熊山遺跡第1次調査の報告—

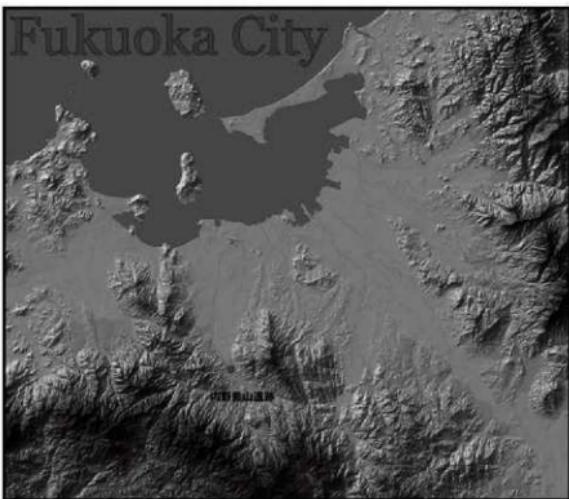
2013

福岡市教育委員会

長峰地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 2

# 内野熊山 1

—内野熊山遺跡第1次調査の報告—



調査番号 1025

調査略号 UKY-1

2013

福岡市教育委員会



## 序

玄界灘に面して広がる福岡市には豊かな歴史と自然が残されており、これを後世に伝えていくことは現代に生きる我々の重要な努めであります。

福岡市では開発事業に伴い、やむをえず失われていく埋蔵文化財については事前に発掘調査を実施し、記録保存に努めています。

今回、長峰地区土地改良事業を行うにあたり、松木田遺跡・岸田遺跡・内野熊山遺跡・長峰谷口B遺跡の発掘調査をおこない、多くの貴重な成果をあげることができました。

本書は内野熊山遺跡第1次調査の報告となります。この報告書の刊行が、文化財保護へのご理解と認識を深める一助となり、また研究資料としても活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から本書の刊行にいたるまで、福岡市長峰土地改良区の皆様をはじめとした地域の皆様、そして関係各位のご理解を賜り、多大なるご協力をいただきましたことに対し厚く御礼申し上げます。

平成25年3月22日

教育長 酒井 龍彦

## 例　言

1. 本書は福岡市教育委員会が、長峰地区土地改良事業に伴い、平成21～23年度に早良区早良地内において実施した発掘調査のうち、内野熊山遺跡第1次調査の発掘調査報告書である。
2. 遺構の実測は上野道郎、宮原邦江、森山早苗、加藤隆也が行った。
3. 繩文時代遺物の実測、観察において山崎純男、板倉有大両氏の協力を得た。
4. 製図は加集和子、加藤が行った。
5. 写真は加藤が撮影した。
6. 本書で用いる方位は座標北（世界測地系）である。磁北は6°西偏し、真北は6°18'西偏する。
7. 本書に関する図面・写真・遺物等の全資料は福岡市埋蔵文化財センターで収蔵・保管されるので、活用いただきたい。
8. 本書の編集・執筆は加藤隆也が行った。

内野熊山遺跡第1次調査

遺跡調査番号	1025	遺跡略号	UKY-1
所在地	早良区早良2丁目地内	分布地図番号	S16-0791
開発面積	19ha	調査実施面積	3.149m <sup>2</sup>
調査期間	平成22年9月16日～平成23年1月25日	事前審査番号	19-1-38

## 本文目次

第I章 はじめに	
1. 調査に至る経過	1
2. 調査体制	2

第II章 遺跡の立地と歴史的環境	3
------------------	---

第III章 調査の記録	
1. 調査の概要	6
2～5. 各区の調査	6
6. まとめ	34

## 挿図目次

Fig. 1 事業地内調査区位置図 1 (1/3,000)	Fig. 10 SD-01 北壁土層断面実測図 (1/50)
Fig. 2 事業地内調査区位置図 2 (1/3,000)	Fig. 11 2区遺構配置図 (1/200)
Fig. 3 周辺遺跡分布図 (1/25,000)	Fig. 12～22 2区出土遺物実測図 (1/2・1/1)
Fig. 4 内野熊山遺跡内調査区配置図 (1/1,500)	Fig. 23 3区遺構配置図 (1/200)
Fig. 5～7 1区遺構配置図 (1/200)	Fig. 24 4区西側調査区遺構配置図 (1/200)
Fig. 8,9 1区出土遺物実測図 (1/2・1/1)	Fig. 25 4区東側調査区遺構配置図 (1/200)

## 図版目次

P L. 1～P L. 6 調査写真
P L. 7～P L. 8 出土遺物写真

# 第Ⅰ章 はじめに

## 1. 調査に至る経過

平成 19 年 7 月 23 日付け、農計第 387 号により、福岡市農林水産局農林部農地計画課長より埋蔵文化財第 1 課長あてに、早良区早良 2 ~ 5 丁目地内における、長峰地区基盤整備促進事業にかかる「埋蔵文化財の事前審査について（依頼）」が提出された（事前審査番号 19 - 1 - 38）。当該事業は平成 21 年度～23 年度の 3 カ年にわたって、長峰地区的耕地 19.0ha において圃場整備事業を行うものである。計画地域内には周知の埋蔵文化財包蔵地として、松木田遺跡・岸田遺跡・下兵庫遺跡・内野熊山遺跡が存在しており、書類審査を行った埋蔵文化財第 1 課では、計画地域全体を対象として試掘調査が必要な旨を回答した（平成 19 年 7 月 24 日、教理 1 第 1260 号）。この後埋蔵文化財第 1 課、農地計画課および、施工主体である福岡市長峰土地改良区（樋口重剛理事長）によって協議が重ねられた。その結果平成 19 年 8 月 7 日付けで、福岡市長峰土地改良区理事長名で教育長山田裕嗣あてに埋蔵文化財予備調査承諾書が提出された。これを受けた埋蔵文化財第 1 課では平成 19 年 8 月 28 日～平成 20 年 4 月 22 日の期間で全面を対象とした試掘調査を行った。試掘調査は地権者と協議の上、耕作の行われていない田面から隨時行うこととし、一部の調査不能であった田面を除いて、計画地全体に設定した。試掘トレンチの総数は 321 本であるが、調査後に再度耕作をするため、各トレンチは幅 1m、長さ 2 ~ 5m の小規模なものとなっている。この試掘調査の結果、計画地の北東側は室見川の氾濫原となり、遺構は確認されなかつたが、西～南側の段丘面上を中心として濃密な遺構群が展開していることを確認した。この結果を平成 20 年 6 月 4 日付け、教理 1 第 633 号で農地計画課長あてに「埋蔵文化財の事前調査について（回答）」で回答した。この回答に伴う協議で、事業実施に当たっては、工事によって埋蔵文化財の破壊が避けられない地区および施工後の保護盛土が 20cm 以下もしくは 2m 以上となる地区については発掘調査を行い、記録保存を図る必要がある旨を伝え、試掘調査結果と事業計画のすりあわせを行い、発掘調査が必要な地区と現状保存が可能な地区を明確化する作業を行うこととした。この結果、平成 21 年度～23 年度の施工計画にあわせ、各年度 4 月から調査対象地について発掘調査を行うこととし、当該年度の調査地点が終了後は、次年度の要調査地点についても、地権者の了解が得られる田面については継続して発掘調査を行うこととした。また、調査中においても計画高の見直しを行い、積極的に遺構の保存を図ることとした。

以上の協議を行ったうえで、平成 21（2009）年 4 月 15 日～平成 22（2010）年 10 月 7 日の期間で松木田（まつきだ）遺跡第 4 次調査（遺跡略号：MKD-4、調査番号：0905）、平成 21（2009）年 10 月 27 日～平成 22（2010）年 10 月 19 日で岸田（きしだ）遺跡第 1 次調査（遺跡略号：KID-1、調査番号：0930）、平成 22（2010）年 9 月 16 日～平成 23（2011）1 月 25 日で内野熊山（うちのくまやま）遺跡第 1 次調査（遺跡略号 UKY-1、調査番号：1025）、平成 23（2011）年 7 月 4 日～平成 23（2011）8 月 19 日で長峰谷口（ながみねたにぐち）B 遺跡第 1 次調査（遺跡略号：NGB-1、調査番号：1111）の調査を行った。なお、整理作業は調査に並行してを行い、報告書は平成 24 年度から 3 カ年で刊行予定である。

発掘調査に当たっては地元施工主体である福岡市長峰土地改良区の地権者の皆様方には、多大なるご理解とご協力をいただき、土地の借用をはじめとして有形・無形のご援助を賜りました。また、地元住民の皆様、設計・施工関係者の方々にも、ご協力をいただきました。ここで、深甚の謝意を表します。

## 2. 調査体制

【事業主体】 福岡市長峰土地改良区

【調査主体】 福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財第2課

【調査総括】 埋蔵文化財第1課長 濱石哲也

埋蔵文化財第2課長 田中壽夫

【事前審査】 埋蔵文化財第1課 事前審査係 吉留秀敏・星野恵美

【調査庶務】 文化財管理課管理係（平成21年度）／埋蔵文化財第1課管理係（平成22・23年度）  
古賀とも子

【調査担当】 埋蔵文化財第2課 長家伸・加藤隆也・大塚紀宣・松尾奈緒子・阿部泰之

なお文化財部は、組織改編のため平成24年4月1日付で教育委員会から経済観光文化局に移管した。



ph. 対象地全景



FIG. 1 事業地内調査区位置図 1 (1/3,000)

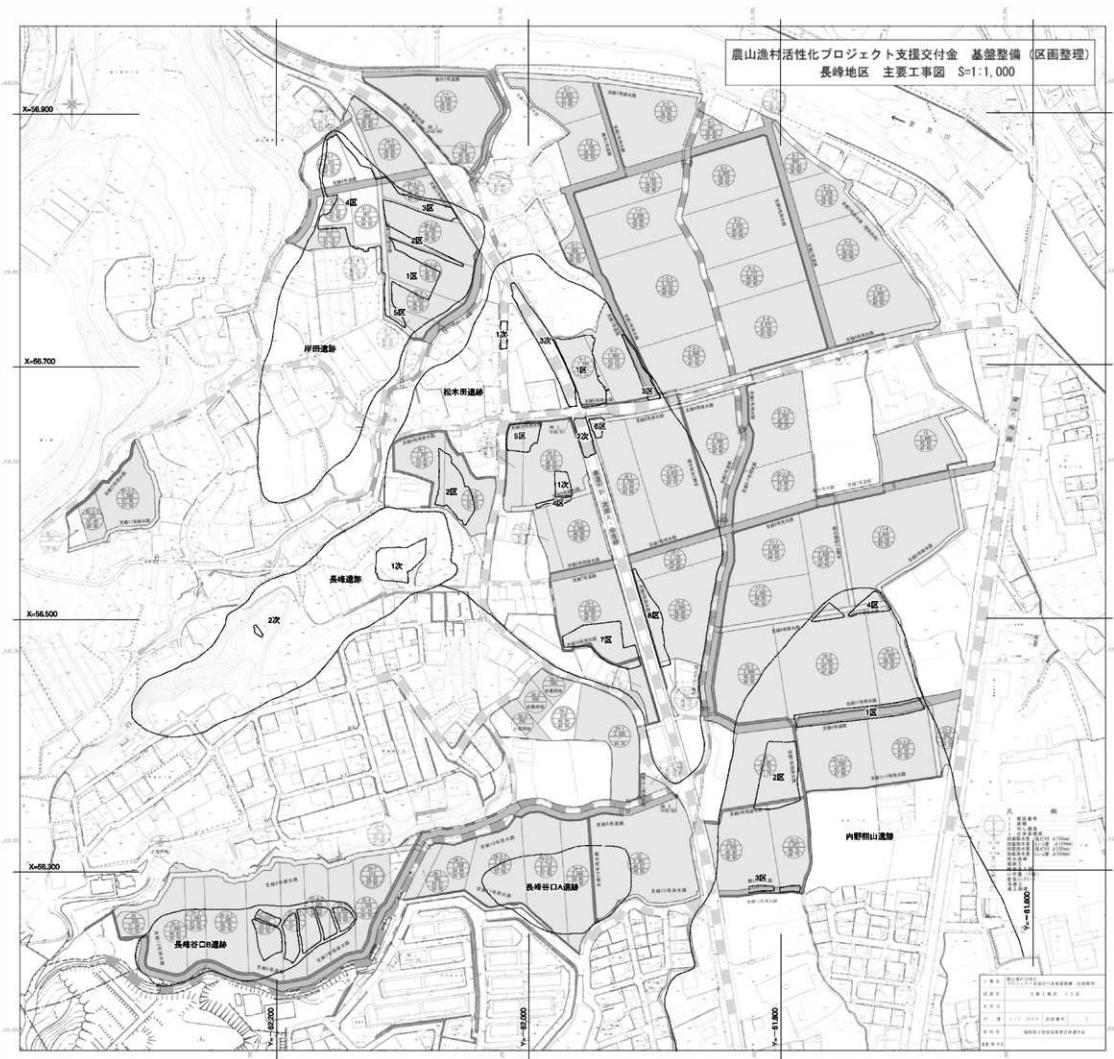


Fig. 2 事業地内調査区位置図 2 (1/3,000)

## 第Ⅱ章 遺跡の立地と歴史的環境

今回調査を行なった早良（さわら）区早良は扇形に開いた早良平野の付け根の部分に位置する。早良平野は背振山系に源を発し、北に流下する室見川によって形成された扇状地性の河成平野部を主体としている。この平野は東方を油山山地から北方に延びる飯倉丘陵に、西方を西山・飯盛・高祖山地に限られ独立した一地域の様相を呈する。かつてはこれらの山地・丘陵が郡境をなしていた。室見川にはこれらの山地から中小の河川が支流となって流入している。とくに西方の西山・飯盛・高祖山地からの流入河川が多い。これら中 小の河川も各々の扇状地を形成しており、山地山麓部とともに早良平野に接続する段丘面となる。また、博多湾に流入する河口部分には砂丘と、その後背部分に湿地帯が形成され、平野内には阿蘇山噴火火砕流起源の洪積丘陵が点在している。

平野内では旧石器時代以降各時代の遺構・遺物が確認されており、概要を簡単にたどりたい。

旧石器時代の遺跡は洪積台上地及び山麓扇状地上に分布している。有田遺跡ではナイフ形石器前段階から細石器段階の石器、脇山遺跡からは細石器が出土している。その他吉武遺跡群・羽根戸原C遺跡・浦江遺跡でも遺物が認められる。

縄文時代の遺跡は前段階の遺跡に加え標高の高い山間部にも広がる。松木田遺跡からは撫糸文土器期の集石が見られる。また背振山系にかかる板屋遺跡・椎原遺跡、平野部の広石遺跡からは早期～前期の土器・石器類が出土している。その後、後晩期には遺構・遺物が増加し、四箇遺跡では後期後半の湿地層からオムギ等の栽培種子が確認され、栽培活動が行われた可能性が高いことが推定されている。また橋本一町田遺跡からは晩期後半の遺物が多量に出土し、水田関連遺構も確認されている。なお、ここでは取り上げなかったが、後世の遺構に混入する状態で当該期の遺物が出土する遺跡は多く、その活動範囲は平野全体に及んでいる。

弥生時代になると平野各所の砂丘・洪積丘陵・沖積微高地・低丘陵上に遺跡群が展開し、安定した集落の形成が見られるようになる。また、斎棺墓を中心とした大規模な埋葬遺構群が形成される。副葬品のあり方からみると、前中期～中期初頭の段階で多数の青銅器・装身具を所有する吉武遺跡群と、少量の青銅器のみが副葬される周辺遺跡の間には大きな集落間格差が生じており、社会的な成熟が認められるが、中期後半以降の段階ではより突出した個人への権力の集中は認められず、隣接する福岡平野・糸島平野に比べて各集団の統合が緩やかな地域であったことをうかがうことができる。

古墳時代の室見川流域における首長墳を見ると、4世紀代には海岸部に五島山古墳、藤崎遺跡の方形周溝墓群が確認されている。この後、前方後円墳である羽根戸南古墳群G-2、3号墳・帆立貝式の桶渡古墳が築かれ、その後羽根戸古墳群F-2号墳が築かれる。終末期には方墳である夫婦塚1号墳・2号墳（市指定史跡）が糸島平野と繋がる幹線道沿いに存在している。本地域の群集墳には鋳造鉄斧・鉄製鍛冶具他の鉄器類、陶質土器等の渡来系遺物が副葬されるものが多く見られる。また鉄滓供獻から推定できるように、この時期には鉄生産も開始されたものと考えられ、須恵器生産等を含めた当時の先進技術を受容した地域として特色付けられる。

古代には行政区画として筑前国早良郡となり、「和名抄」によると七郷が知られ、吉武遺跡群周辺は平群郷（へぐりごう）に比定されている。古代の早良奥部は、怡土郡に抜ける日向峠を擁し、怡土城の後背地であり製鉄が盛んにおこなわれる重要な地域であった。

中世には現在も痕跡をとどめる条里地割に沿う大規模な水田開発が行われ、景観的には近現代につながる村落景観が形成された。また居館跡が都地遺跡・清末遺跡などで確認され、有田遺跡には小田部城、西油山には荒平城など中世城郭が築かれる。

本章掲載の埋蔵文化財包蔵地の範囲は平成24年3月現在の推定線であり、その後変更されている可能性があります。また、煩雑を避けるため本文に直接関係しない遺跡については省略しています。



Fig. 3 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

- 1.内野熊山遺跡
- 2.長峰谷口A遺跡
- 3.長峰谷口B遺跡
- 4.松木田遺跡
- 5.岸田遺跡
- 6.長峰堀古墳遺跡
- 7.下兵庫町遺跡
- 8.鶴来果遺跡
- 9.脇山A遺跡
- 10.広瀬遺跡
- 11.峯遺跡
- 12.中山遺跡
- 13.内野遺跡
- 14.柿木原遺跡
- 15.大坪遺跡
- 16.東入部遺跡
- 17.岩本遺跡
- 18.安通遺跡
- 19.清末遺跡
- 20.黒塔A遺跡
- 21.黒塔B遺跡
- 22.浦江遺跡
- 23.金武青木A遺跡
- 24.金武青木B遺跡
- 25.金武城田遺跡
- 26.乙石遺跡
- 27.都地遺跡
- 28.都地泉水遺跡
- 29.重留遺跡
- 30.四箇船石遺跡
- 31.四箇古川遺跡
- 32.四箇東遺跡
- 33.四箇遺跡
- 34.ヒワタシ遺跡
- 35.熊本遺跡
- 36.重留村下遺跡

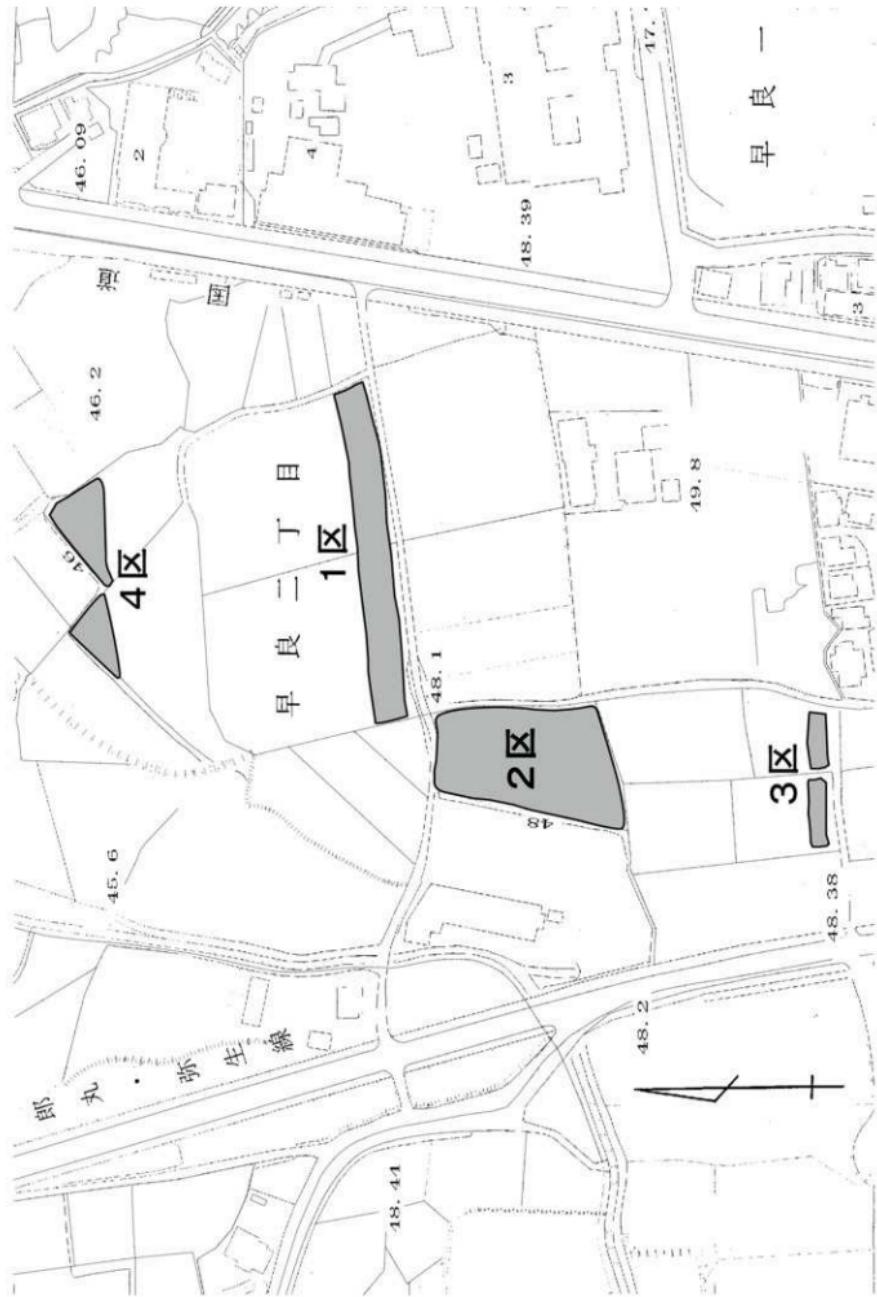


Fig. 4 内野熊山遺跡内調査区配置図 (1/1,500)

### 第Ⅲ章 調査の記録

#### 1. 調査の概要

今回の調査地は早良2丁目地内であり、内野熊山遺跡の北側に位置している。現況は水田である。事前に行なわれた試掘調査では、縄文時代早期の撚糸文土器が出土しており、北側に位置する松木田遺跡と同様に内野熊山遺跡地内においても縄文時代の良好な遺構の存在が想定されていた。調査は、田面の切り下げ、水路掘削や恒久的構造物である道路の敷設など各原因が異なることにより、事業地内でそれぞれ調査地が離れるため、4区に分けて調査をおこなった。

#### 2. 1区の調査

##### 調査概要

この調査区は、既存道路の振替と水路の敷設がおこなわれるため、幅約10m、長さ約100mの東西方向に長いものとなった。遺構検出作業は、耕作土を除去後、床土と約10cm厚の遺物を包含する暗茶褐色粘質土を剥いだ黄褐色シルト層の上面にておこなった。検出遺構は、不定形を呈する窪み状のものを複数確認した。覆土は上層の暗茶褐色粘質土と大きな差異はなく、遺構壁面も不整形であり、人為的な掘削によるものとは考えられなかった。ただし、一定量の縄文時代を主体とする土器や石器を包含しているため、掘削と記録をおこなった。掘削作業にあたり、遺物が出土したものには0001から番号を付与し、遺物の取り上げを行なった。今回の報告では、煩雑さを避けるため001からの3桁による表記をおこなった。また、掘削作業と平行して、2本の深掘トレーナーにより、遺構検出面である黄褐色シルト層の下位状況を確認した。1本目の深掘トレーナーは調査区東寄りに東西方向に設定した。層序は上から130cmの黄褐色シルト層、40cmの灰色細砂層の下層は粗砂と人頭大の礫混じり層となり、遺構検出面から270cmで湧水点となった。2本目の深掘トレーナーはやや中央寄りに南北方向に掘削をおこなった。層序は基本的に同じであるが、黄褐色シルト層の堆積が厚く約150cmであった。その上位は暗褐色にヨゴレおり、その変化は漸位的である。遺物等は細片を含めて出土していない。その下は灰色細砂、粗砂と人頭大礫混じり層となり、遺構検出面より290cm下で湧水点となった。

土質や色調の顯著な差異による調査をおこなったが、最後に縄文時代遺構の遺存が考えられているため、集石遺構、焼土面の確認を目的に、調査区内に世界測地系座標を基準とする10m×10mのグリッドを設定し、遺構検出面である黄褐色シルト層のヨゴレの著しい調査区西側を中心に、グリッド毎による掘削調査をおこない1区の全調査を終了した。

##### 遺構と遺物

遺物が出土した不定形を呈する窪み状のものは、63基を数える。分布密度は、調査区の中央部が高い傾向を示している。覆土は、暗茶褐色砂質～粘質土である。いずれからも縄文時代の土器片を中心とする遺物が出土している。001は調査区西側北端に位置する。平面形は長軸3.5mの橢円形を呈しており、深さは約106cm遺存し、断面は擂鉢形をなしている。縄文土器片が2点出土している。調査区西寄りに位置する007は、平面は長軸約70cmの不定形の窪み状を呈する。遺存する深さは約40cmであり、016の三万田式精製鉢片が出土した。調査区中央部北寄りにて検出された011の平面は長軸約2.4mの不定形を呈し、最大残存深さは10cmである。北側からは、017の縄文時代前期ごろと考えられる石斧が出土した。

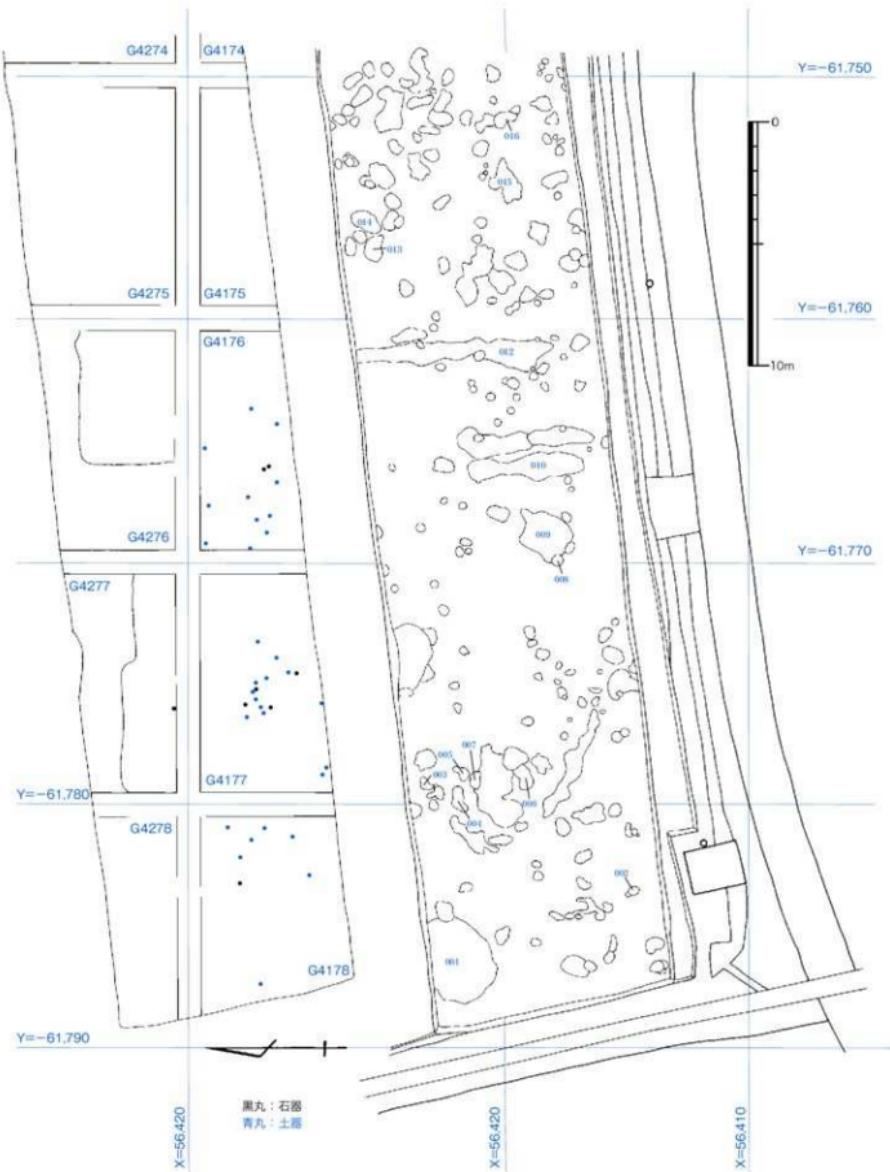


Fig. 5 1区遺構配置図 (1/200)



Fig. 6 1区遺構配置図 (1/200)

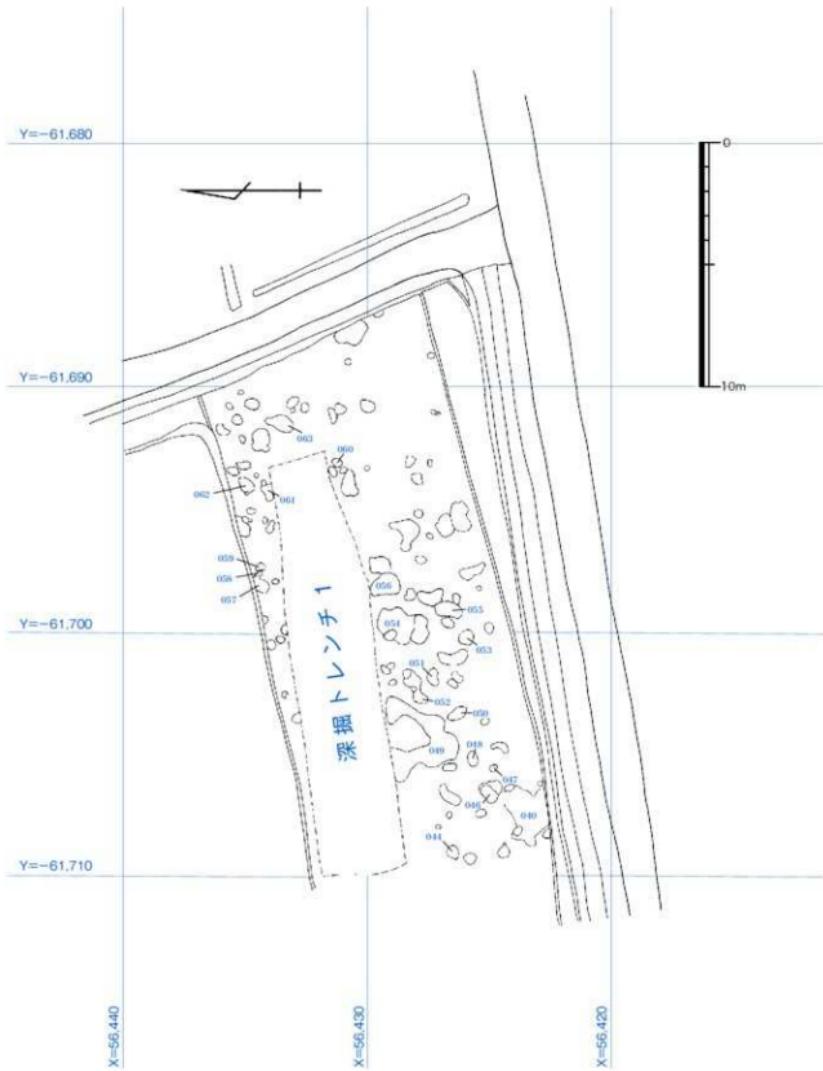


Fig. 7 1区遺構配置図 (1/200)

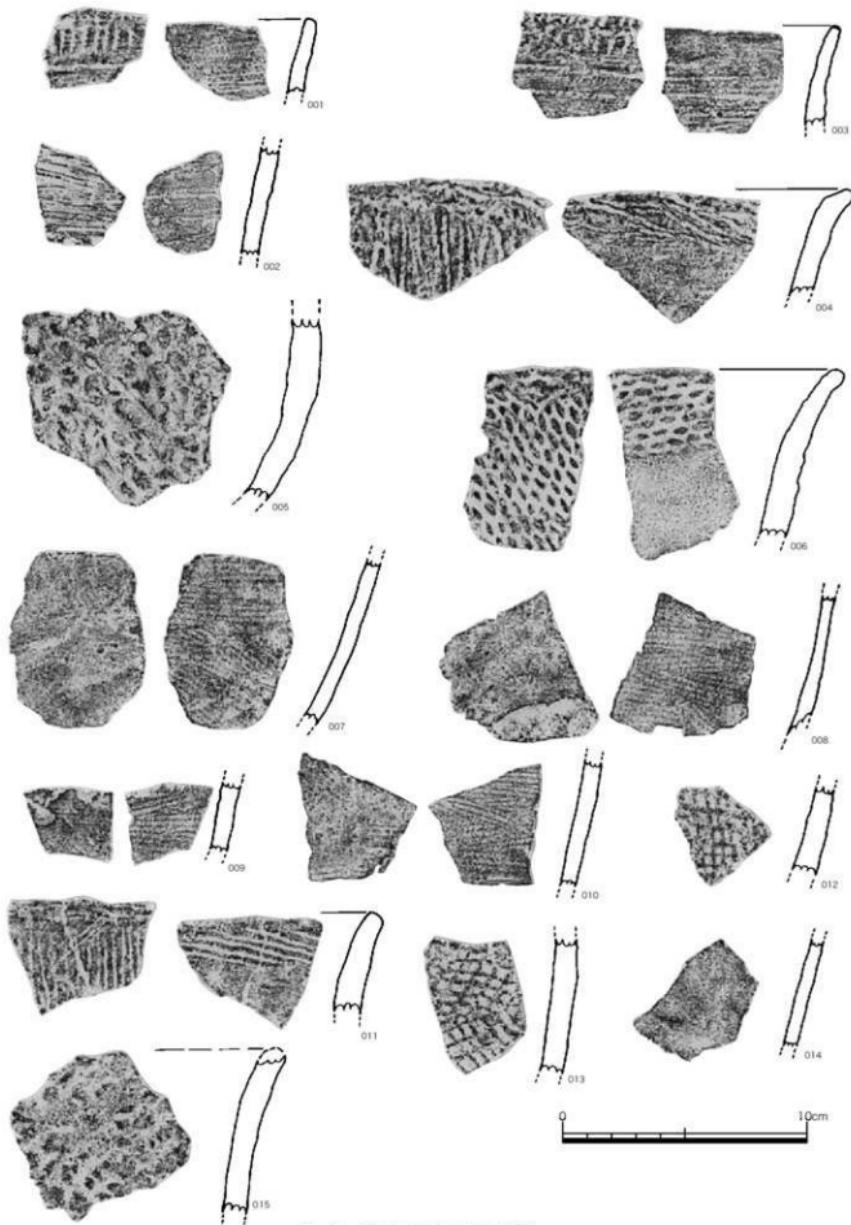


Fig. 8 1区出土遺物実測図 (1/2)

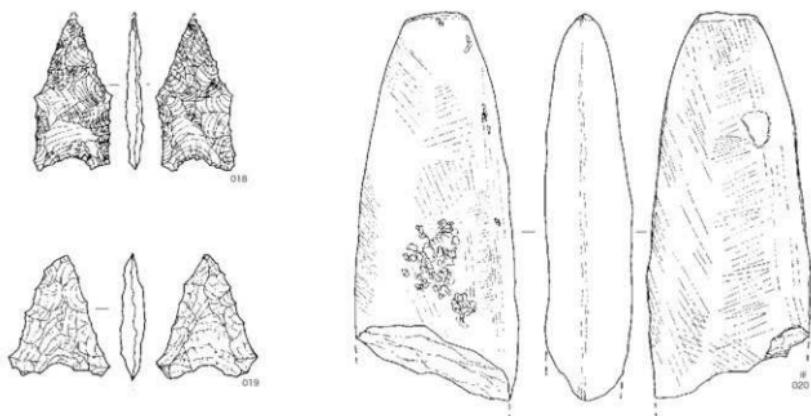
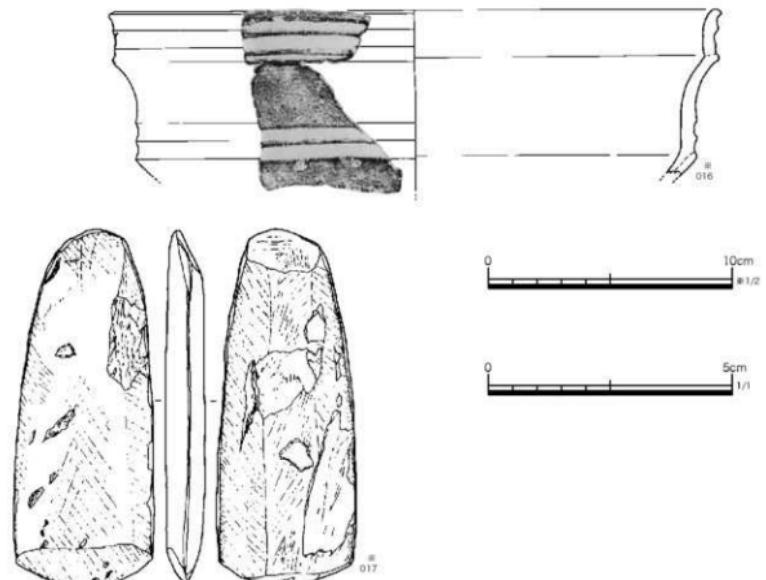


Fig.9 1区出土遺物実測図 (1/2・1/1)

1区出土土器観察表

遺物番号	グリッド番号	種類	胎土	焼成	内面(色調・質感)	外面(色調・質感)	備考	X+50.000 C+1倍	Y+50.000 C+1倍	レベリング	
001	4178	深鉢	褐良	石英、黄土、角閃石少なく含む	良好	鈍い黄褐色 良好生地	黄褐色 良好剥離実文(口縁～口壁上端)	前期未か	419.3	769.2	47.07
002	4176	脚付鉢	良	石英、長石、角閃石含む	良好	明黄褐色 直線条痕	黒 良好生地	後期	419.2	767.6	47.12
003	4176	深鉢	良	石英、長石含む	良好	鈍い黄褐色 良好生地	鈍い黄褐色 直線条痕 剥離剥離実文(口唇～口縁)	前期未か	416.3	764.3	46.99
004	4176	深鉢	石英、黄土、角閃石多く含む	良好	黄灰褐色 ナメ～緻(緻)	鈍い黄褐色 木目状	早期 黑点文土器	419.3	765.4	47.09	
005	4177	深鉢	粗	正角石(5mm)、石英、輝母多い	良好	黒褐色 ユビオワエ彫り凹凸なし	鈍い黄褐色 大型削円印押文(10×8mm)	早期 押型文土器	414.5	778.8	47.02
006	4177	深鉢	石英、長石、角閃石含む	良好	灰褐色 ナメ～押	鈍い黄褐色 小幅円印押型文(7×3mm)	早期 押型文土器	417.6	776.4	46.96	
007	4177	深鉢	良	石英、長石少なく含む	良好	浅～鈍い黄褐色 条～ナメ	鈍い黄褐色 光ナメ	早期	417.0	776.2	47.09
008	4177	深鉢	良	石英、長石少なく含む	良好	明黄褐色 光ナメ	光ナメ	早期	417.1	776.1	46.97
009	4177	深鉢	石英	良のうのう、中を含む、解説参考	良好	外周よりやや明るい黄褐色	鈍い黄褐色 木目状(中空)凹凸有り(斜面)	前期未か	417.3	775.7	47.05
010	4177	深鉢	良	石英、長石少なく含む	良好	鈍い黄褐色 良好生地	鈍い黄褐色 光ナメ	後期	419.1	774.1	47.10
011	4178	深鉢	石英、長石含む、角閃石目立つ	良好	黒褐色 照手文	黒褐色 照手文	早期 黑点文土器	415.8	781.3	46.79	
012	4176	深鉢	粗	石英、長石、輝石多い	やや不良	黒褐色 ナメ	黒褐色 光手印押型文	早期 押型文土器	417.9	782.2	47.00
013	4178	深鉢	石英、長石多い	やや不良	鈍い褐色	鈍い褐色 光手印押型文	早期 押型文土器	417.5	781.4	46.98	
014	4178	深鉢	良	細かい石英、長石含む	良好	浅黄褐色	明黄褐色 ナメ	早期	416.9	781.0	46.90
015	4178	深鉢	粗	石英、長石、輝石多い	良好	鈍い黄褐色	鈍い黄褐色 大指円印押型文(10×7mm)	早期 押型文土器	418.4	781.0	46.88
016	4277	井筒製	精良	石英少なく含む	良好	黒 三才牛	黄褐色 三才牛	後期 三万出式	421.2	778.9	47.12

1区出土石器観察表

遺物番号	グリッド番号	種類	石材	重量(g)	X+50.000+倍	Y+50.000+倍	備考
017	4274	石斧		185.1	426.5	749.0	ほぼ完存
018	表探	石器	闕離石	1.6	—	—	
019	表探	石器	安山岩	1.6	—	—	
020	表探	石斧		612.0	—	—	2/3直存



ph. 調査区周辺状況（東から）

### 3. 2区の調査

#### 調査概要

この調査区は、調査1区の南西に位置している。田面全体の切下げ工事をおこなう計画のため、田面1面分を調査区として設定した。土層堆積の基本層序は上層から、約25cmの現耕作土と床土、約20cmの黄褐色シルトと灰褐色砂質土とが混じる盛土、約5cmの灰褐色砂質土、約15cmの灰茶色砂質土、約5cmの黄褐色砂質土、約20cmの暗茶褐色砂質土の下層が遺構検出面である黄褐色シルト層となる。1区と同様に座標X=56,360、Y=-61,810の地点に深掘トレーニングを設定し、黄褐色シルト層より下層の状況を確認した。基本層序は次のとおりであった。上から約90cmの黄褐色砂質土と拳大疊混じり層、約100cmの人頭大疊層（大型疊も混じる）、その下層は粗砂と疊の混じる層で上面から約250cmで湧水点となった。

遺構検出作業は、耕作土等を除去後、黄褐色シルト層の上面にておこなった。検出遺構は1区と同様の不定形を呈する窪み状のものと溝（SD-01）を検出した。掘削調査は、まず溝（SD-01）から着手したが、溝の掘方確認トレーニングの溝掘方の更に下から押型文期土器が出土したこと、不定形窪みに人為的な掘削痕跡がみられないことから、溝（SD-01）以外の調査は世界測地系座標を基準とする10m×10mのグリッドを設定し、黄褐色シルト層のヨゴレの著しい部分を中心に、グリッド毎による掘削調査をおこない2区の全調査を終了した。

#### 遺構と遺物

溝（SD-01）は調査区の北東寄りで、調査区に平行するように検出された。のことから現在の水路を含む地割りにも影響する遺構であると考えられる。溝はやや蛇行しながら、磁北に近似するW-5°-N（座標北）の方位をもち北流しており、残存する幅は2~3m、深さは約50cmである。早良平野内の条里地割とはやや方位が異なる。堆積土層の状況と底面に更に溝がみられることから、幾度かの溝の掘り直しがおこなわれていると考えられる。覆土は茶灰色や灰茶色の砂質土であり、水の流れがあったことがうかがわれる。出土遺物は多くないが、龍泉窯系青磁碗片、外底部糸切りによる土師皿片や滑石製石鍋の破片が出土しており、中世以降に埋没したと考えられる。

10m×10mグリッドによる調査は、世界測地系座標を基準とするグリッドを設定し、各グリッドの名称はグリッドの南東隅の杭座標を使用し、X・Y座標のm値下3桁の上2桁の数値を併記した。例えば、G 3880グリッドの南東隅杭の数値がX=56,380m、Y=-61,800mであることを示している。この表記方法は、今回おこなったすべての調査区のグリッド呼称に踏襲されている。

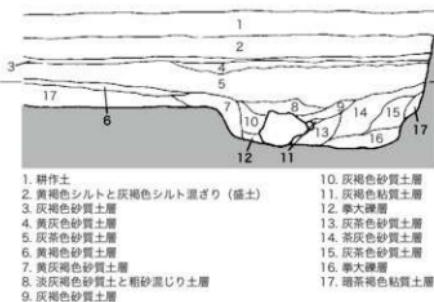
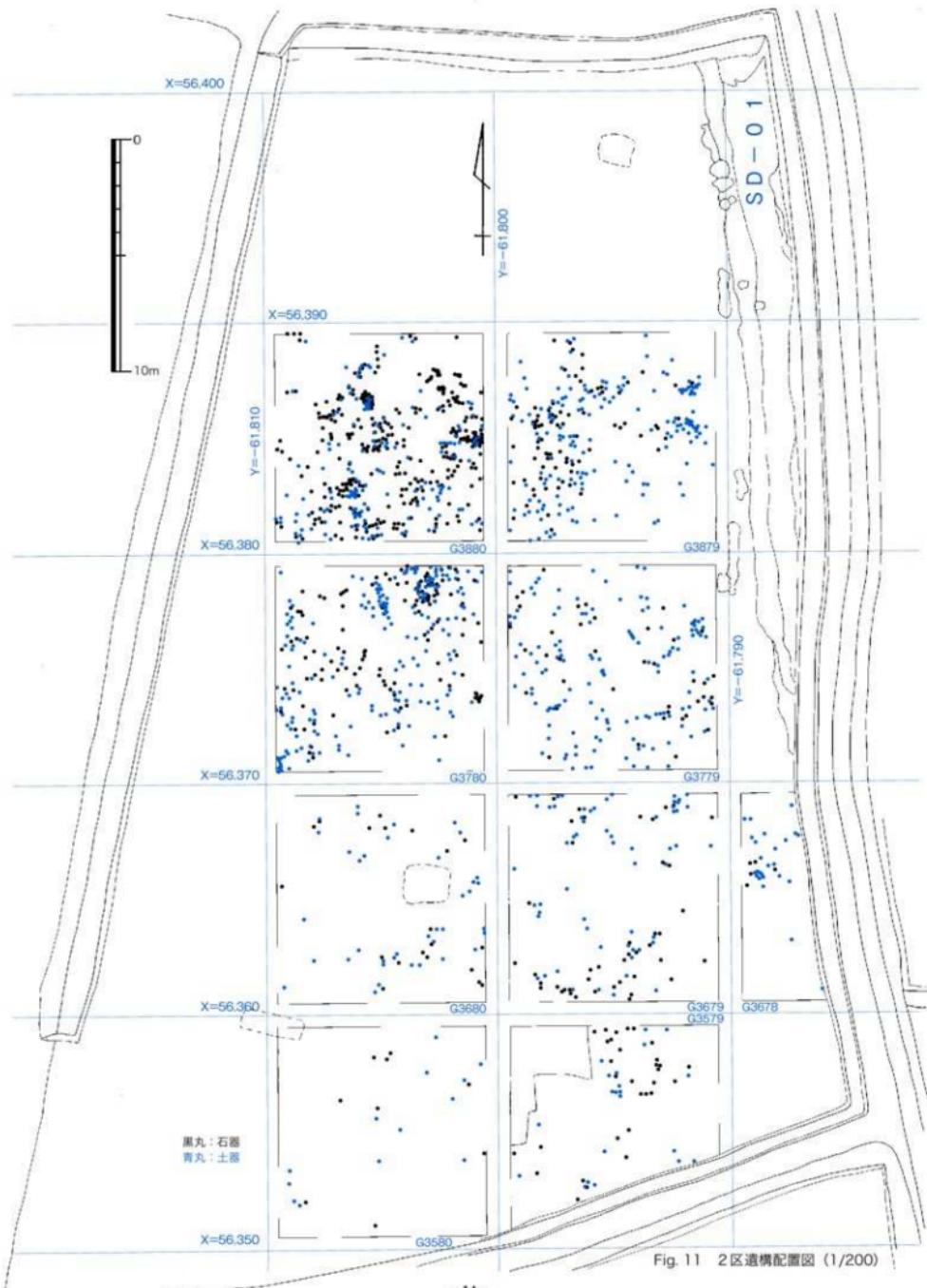


Fig. 10 SD-01北壁土層断面 (1/50)

グリッドの掘削は黄褐色シルト層のヨゴレの著しい部分からおこない、出土する遺物密度の高い方向へグリッドを設定していった。作業はスコップにて地山層を縱方向に極力薄く剥ぎ、遺物を確認する毎にそのポイントを100分の1平板にて測量し、レベル値を計測した。調査は、まず北側のG 3880からおこない、遺物の出土状況から東と南方向に掘削調査を進めていった。報告や表の記述は、現場作業過程とは逆に



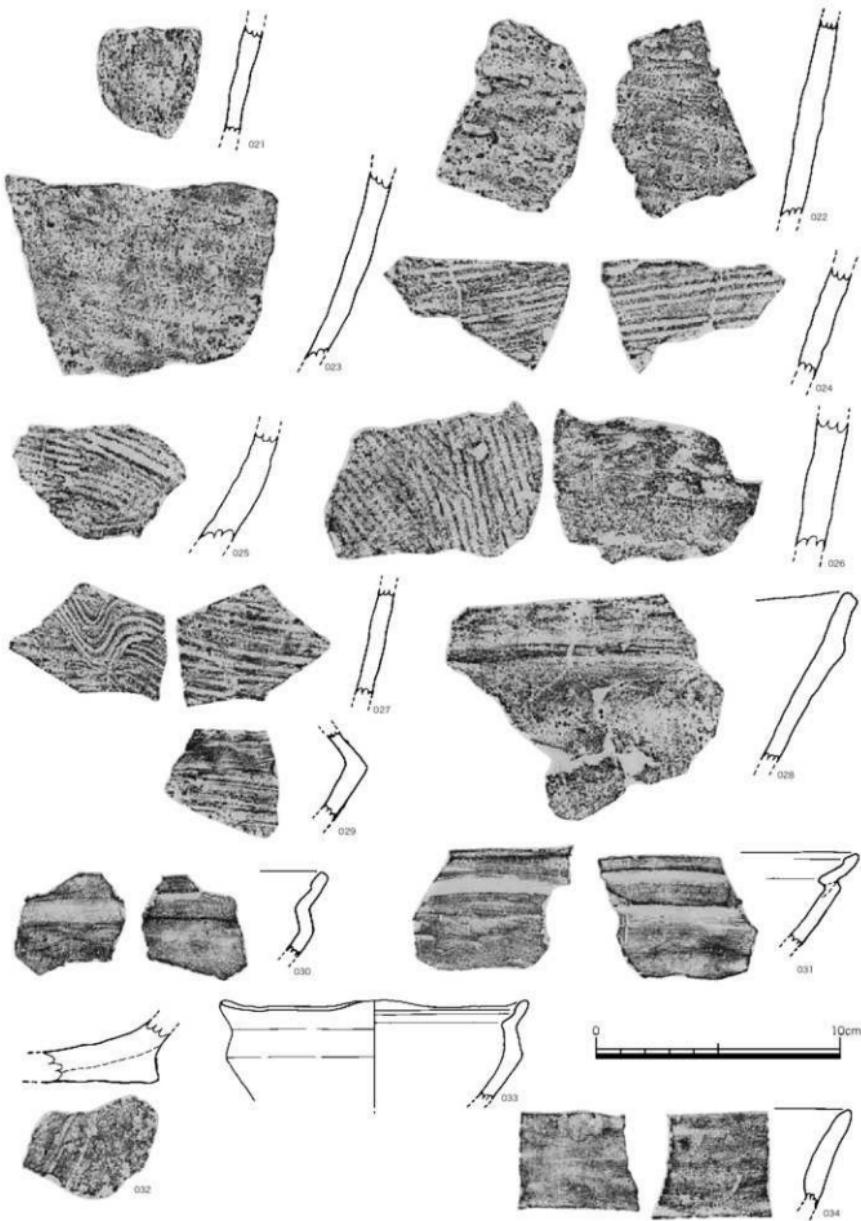


Fig. 12 2区出土遺物実測図 1 (1/2)

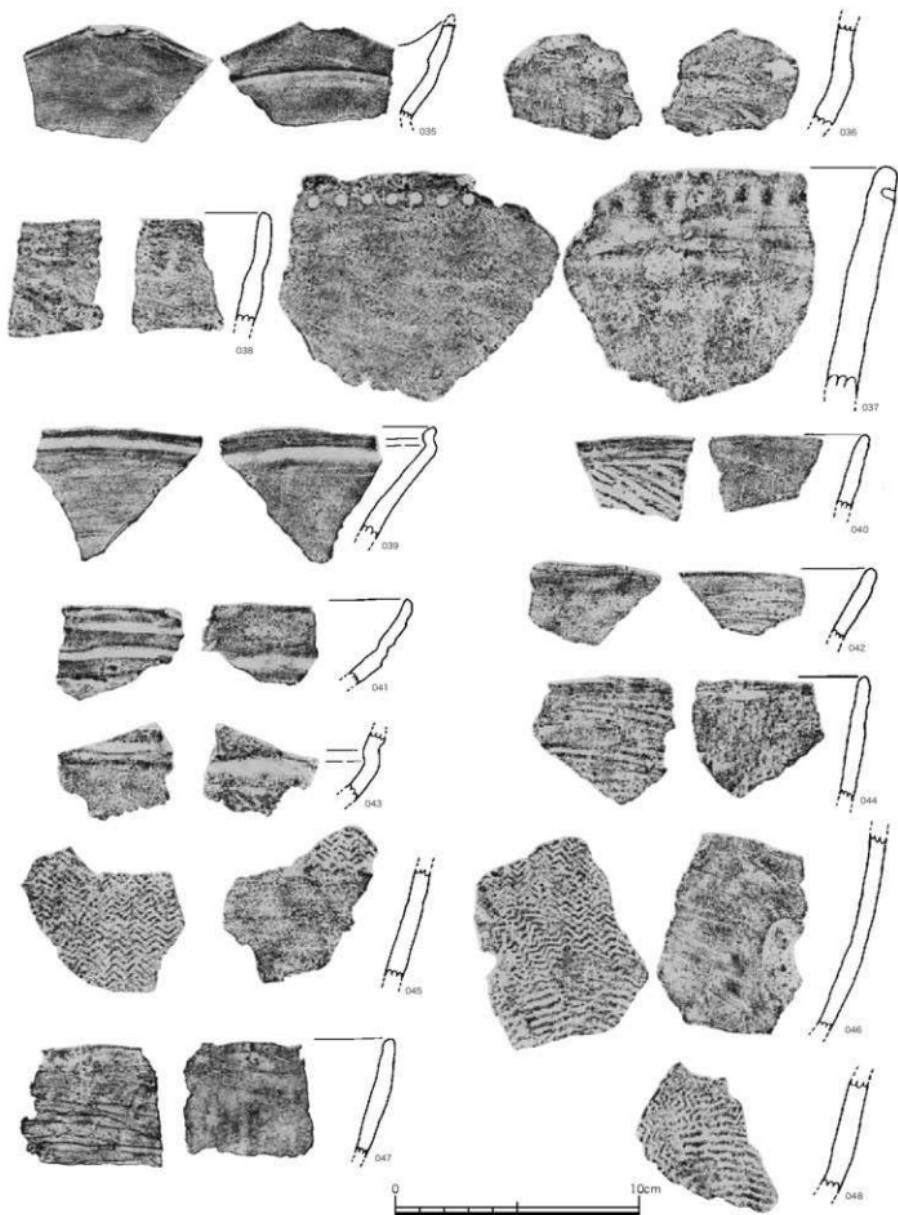


Fig. 13 2区出土遺物実測図 2 (1/2)

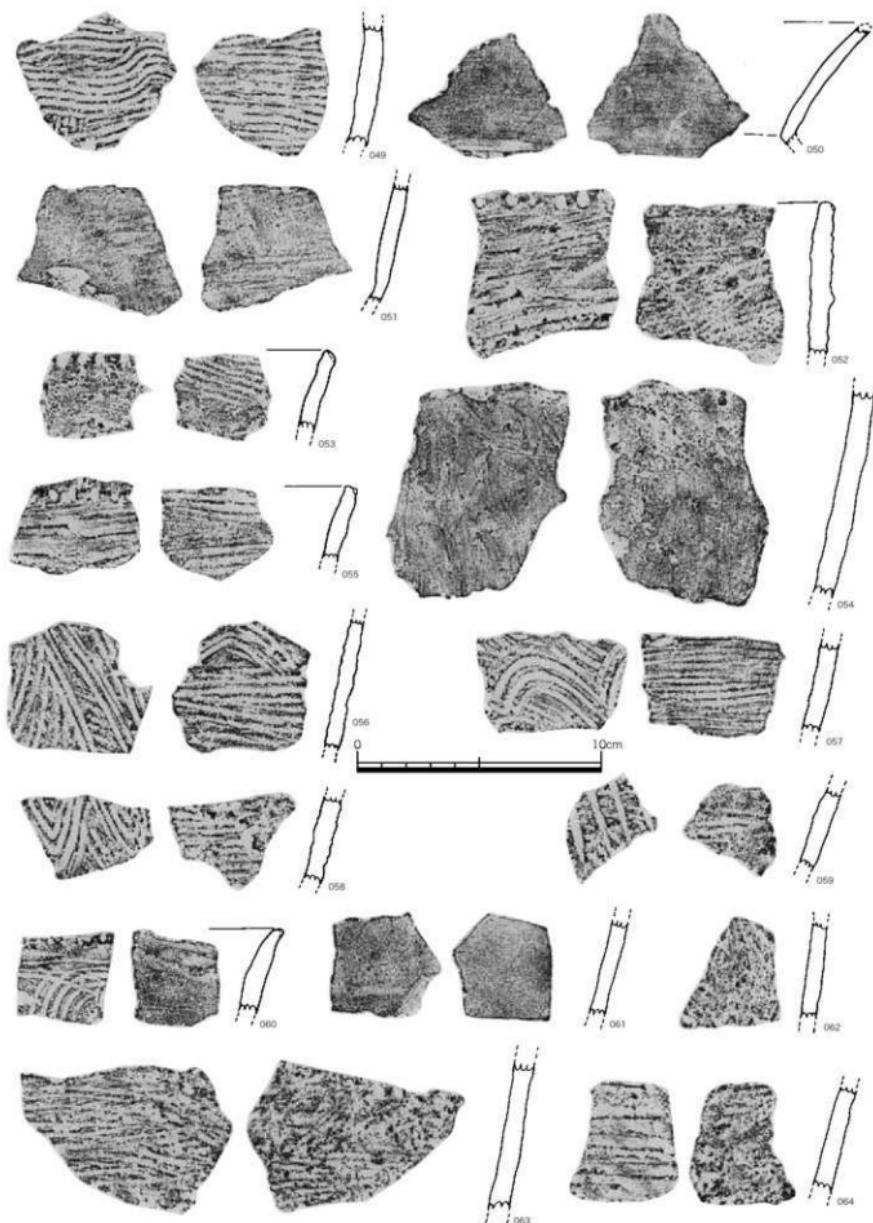


Fig. 14 2区出土遺物実測図3 (1/2)

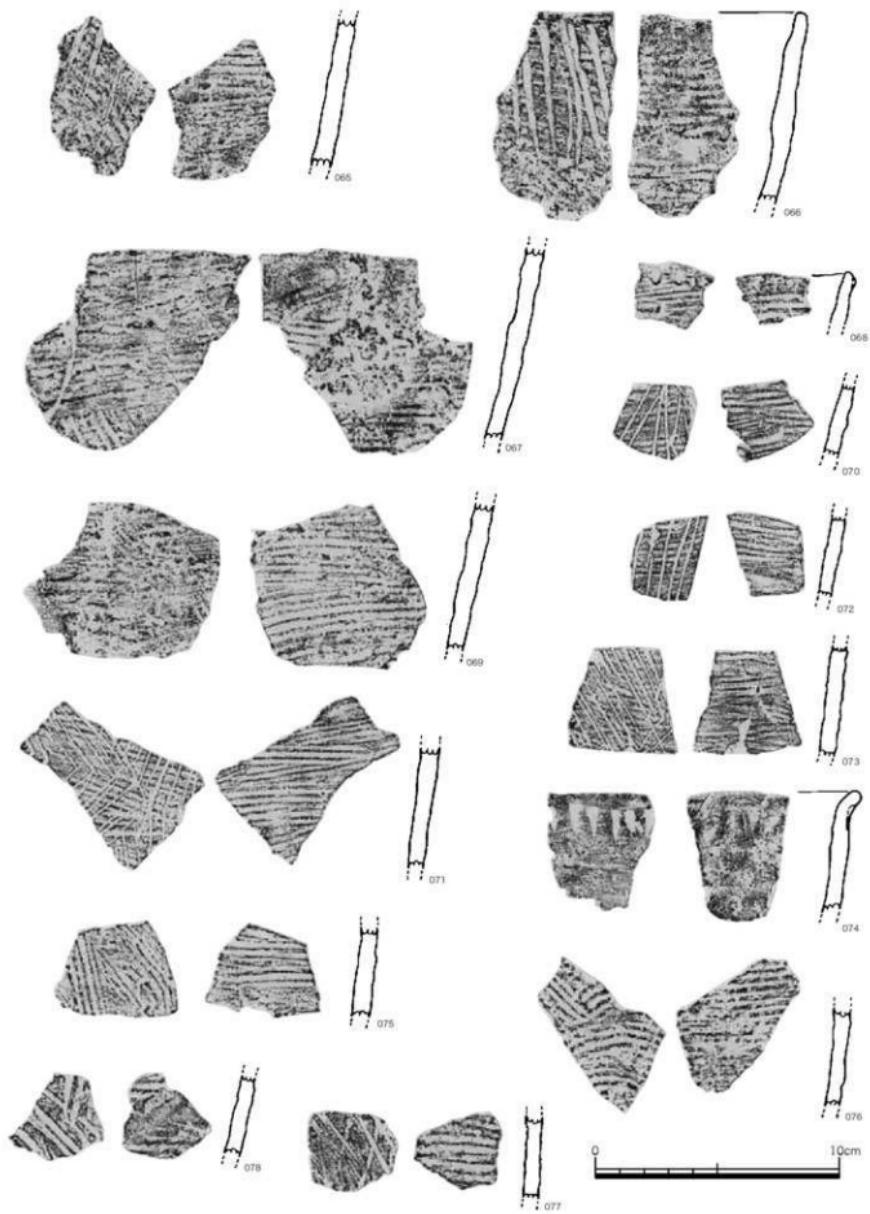


Fig. 15 2区出土遺物実測図 4 (1/2)

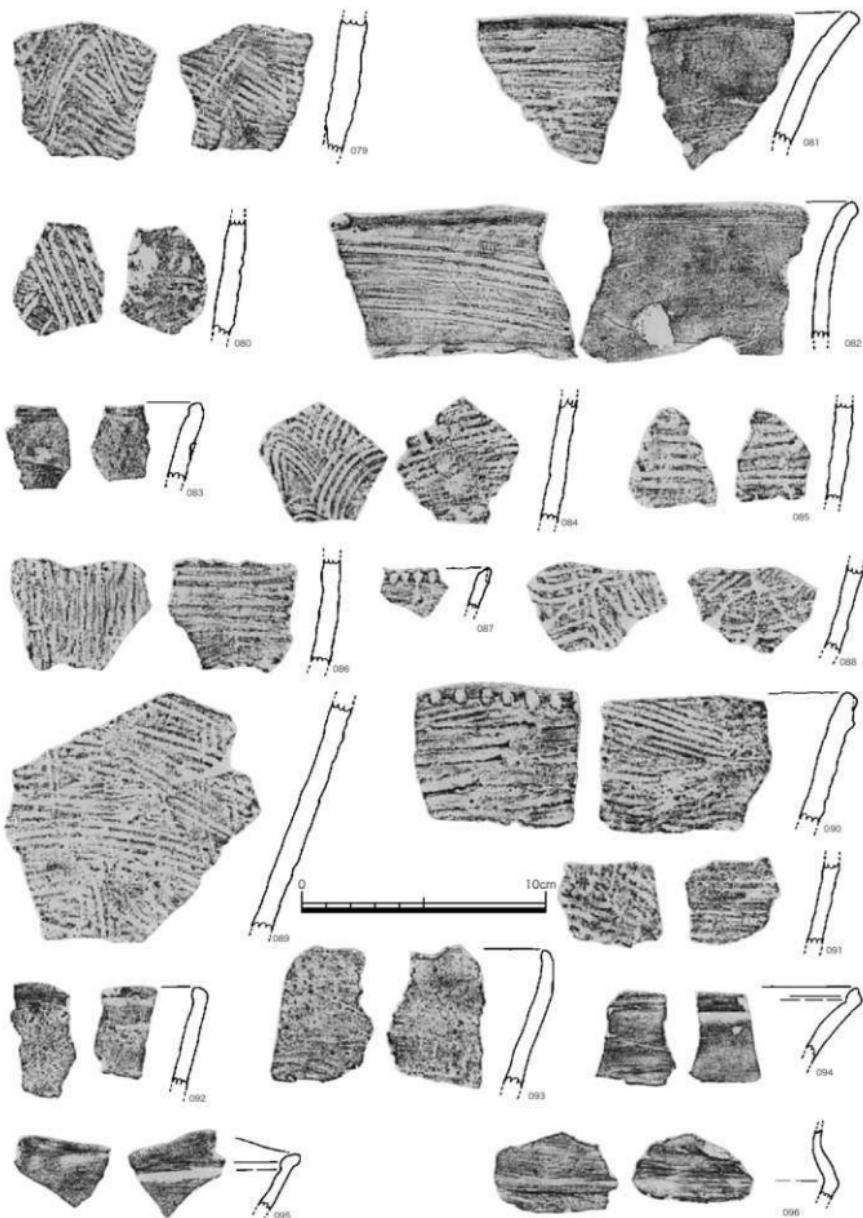


Fig. 16 2区出土遺物実測図 5 (1/2)

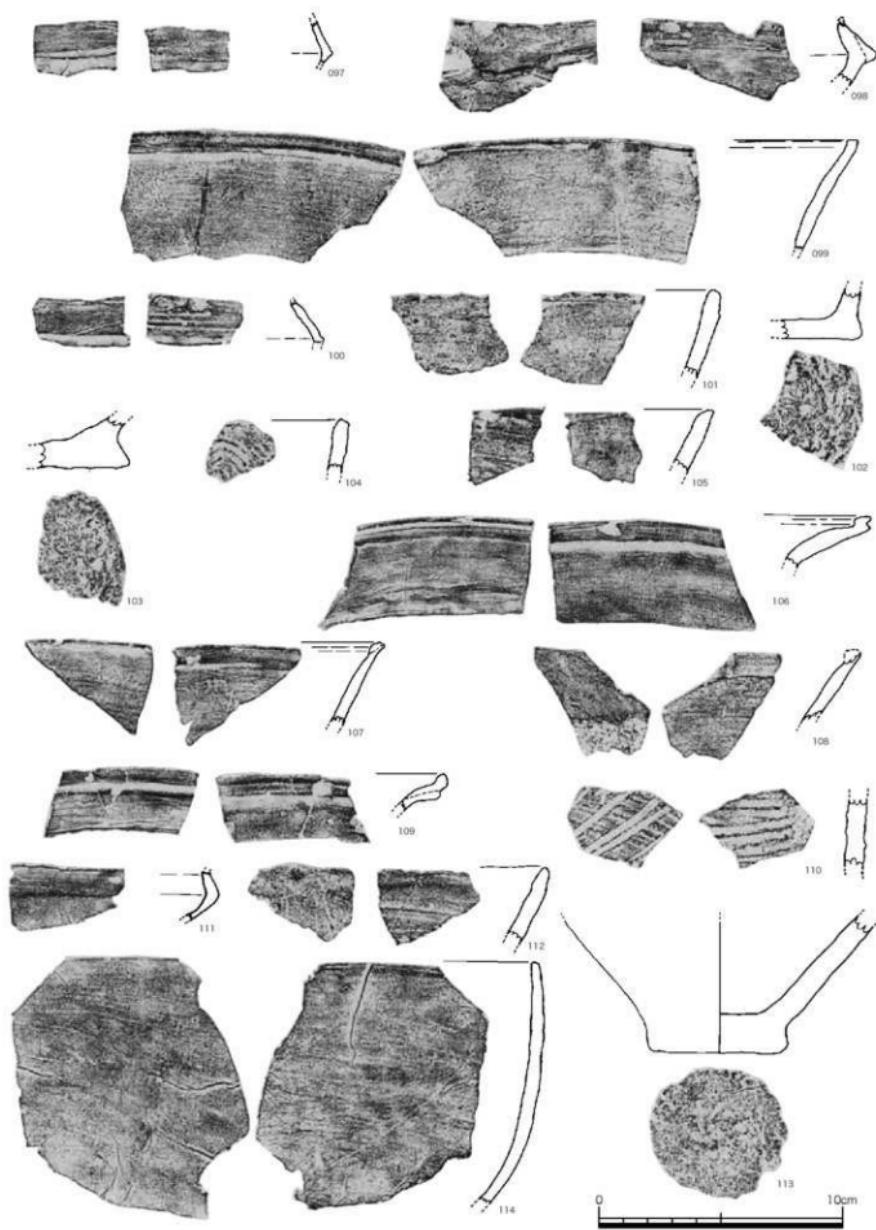


Fig. 17 2区出土遺物実測図 6 (1/2)

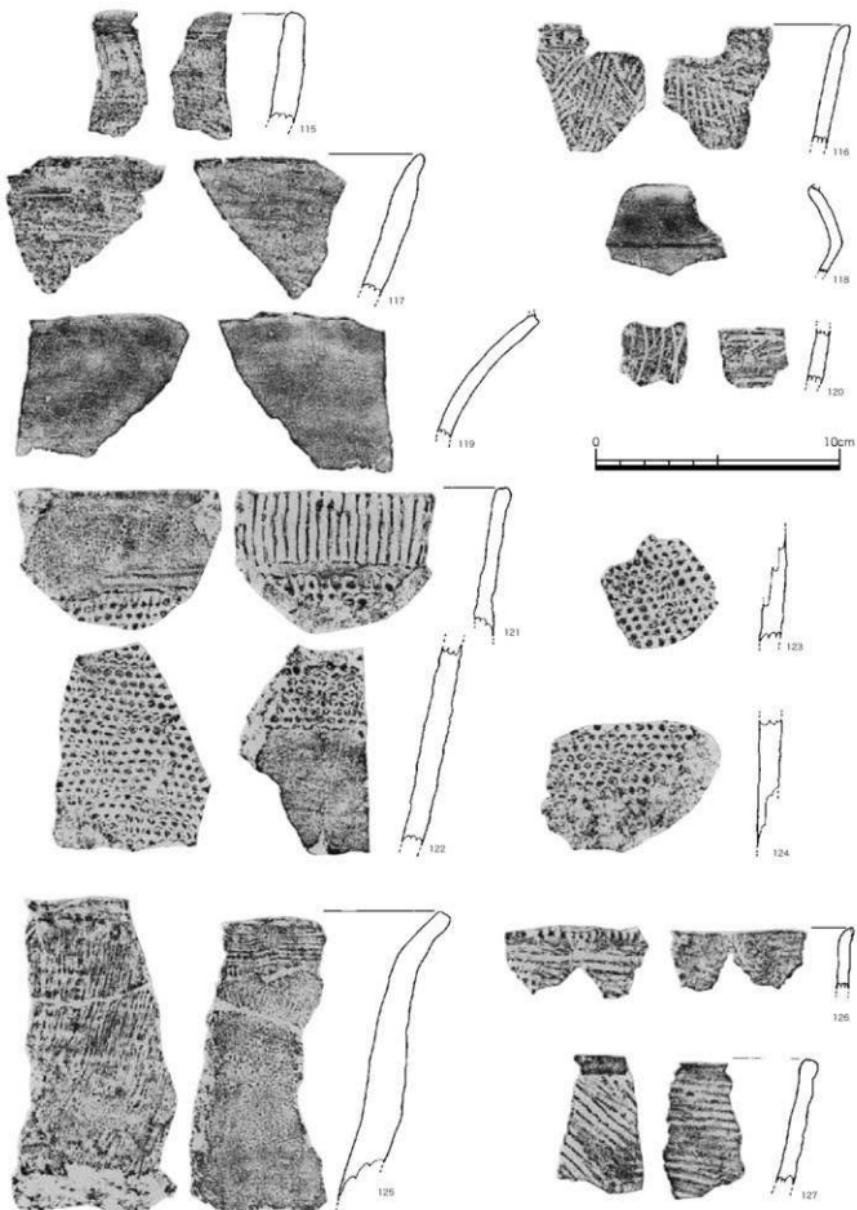


Fig. 18 2区出土遗物实测图 7 (1/2)

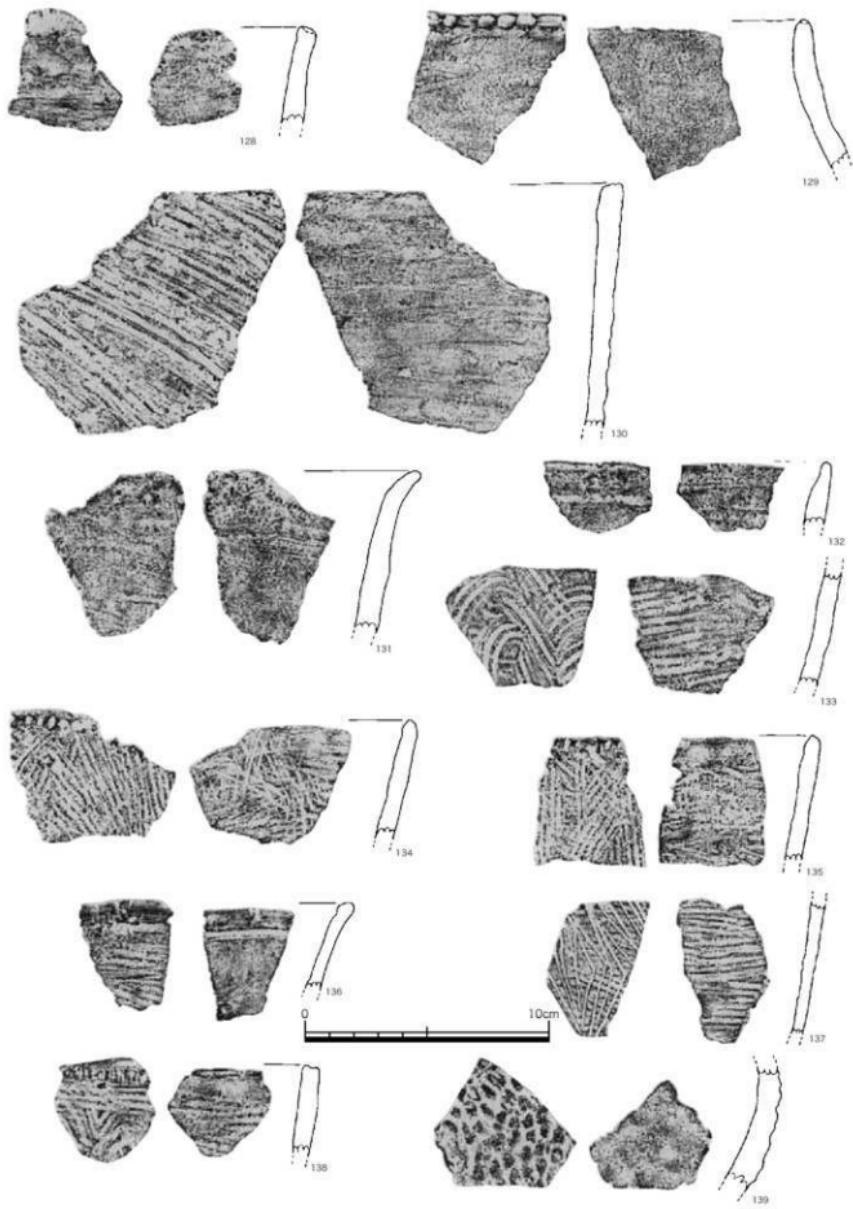


Fig. 19 2区出土遺物実測図 8 (1/2)

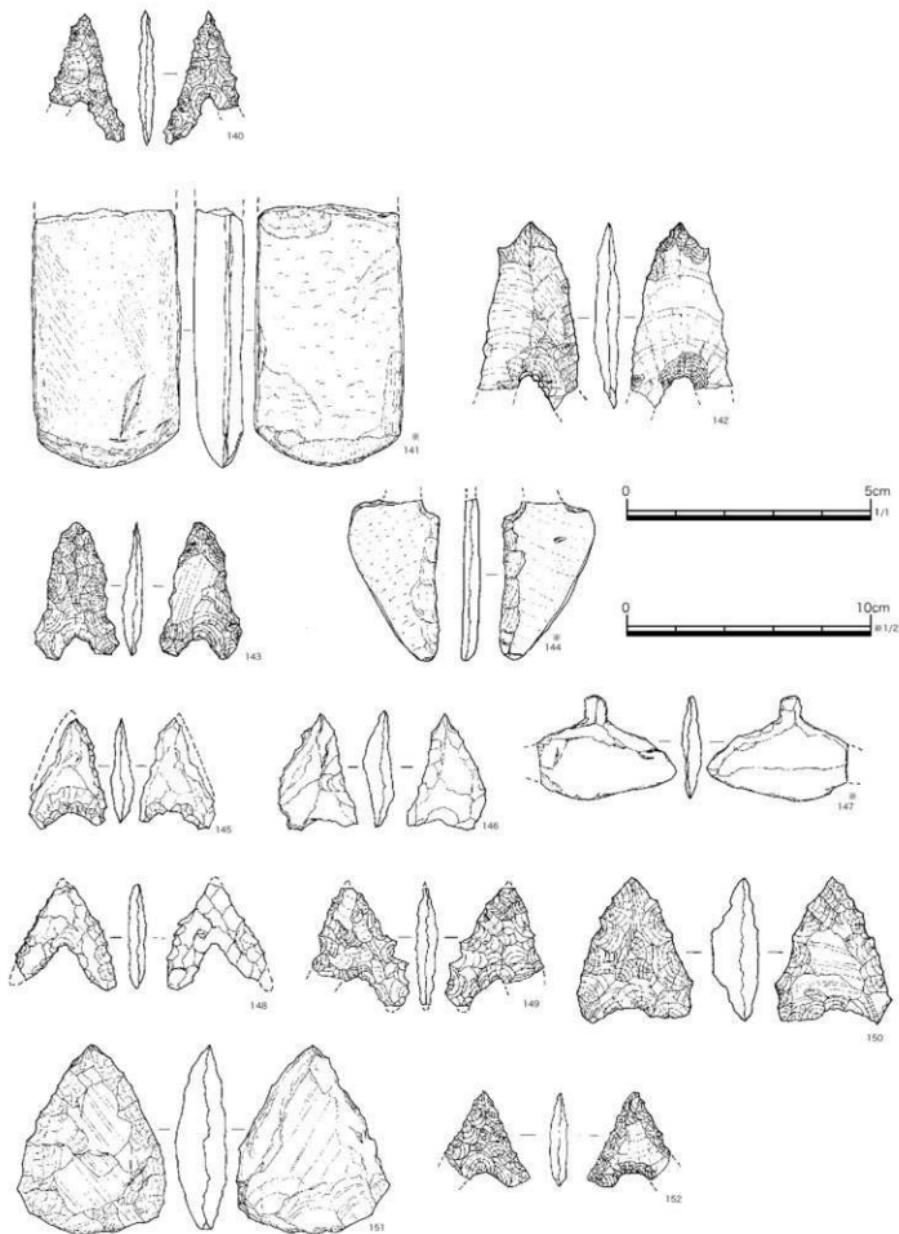


Fig.20 2区出土遺物実測図 9 (1/2・1/1)

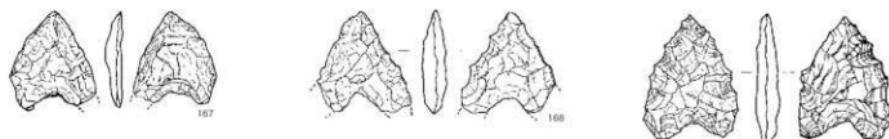
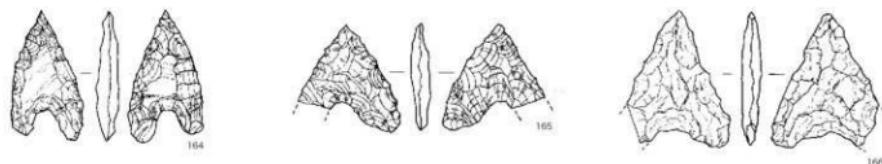
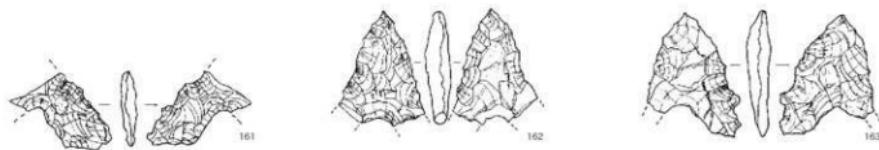
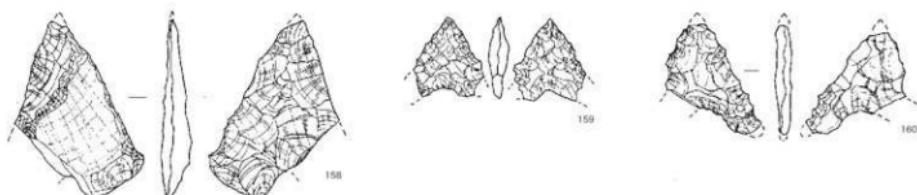
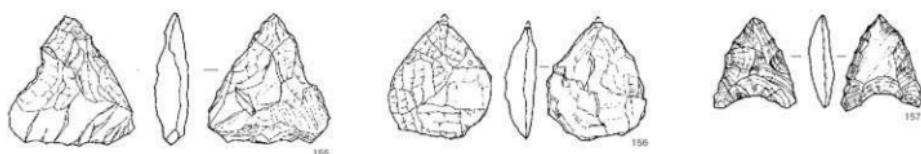
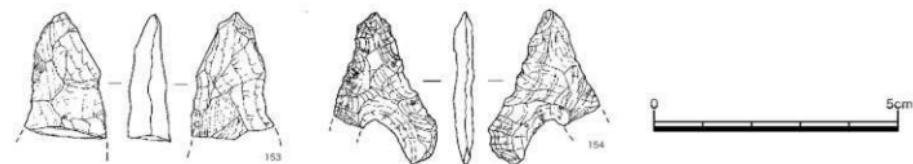


Fig.21 2区出土遺物実測図 10 (1/1)

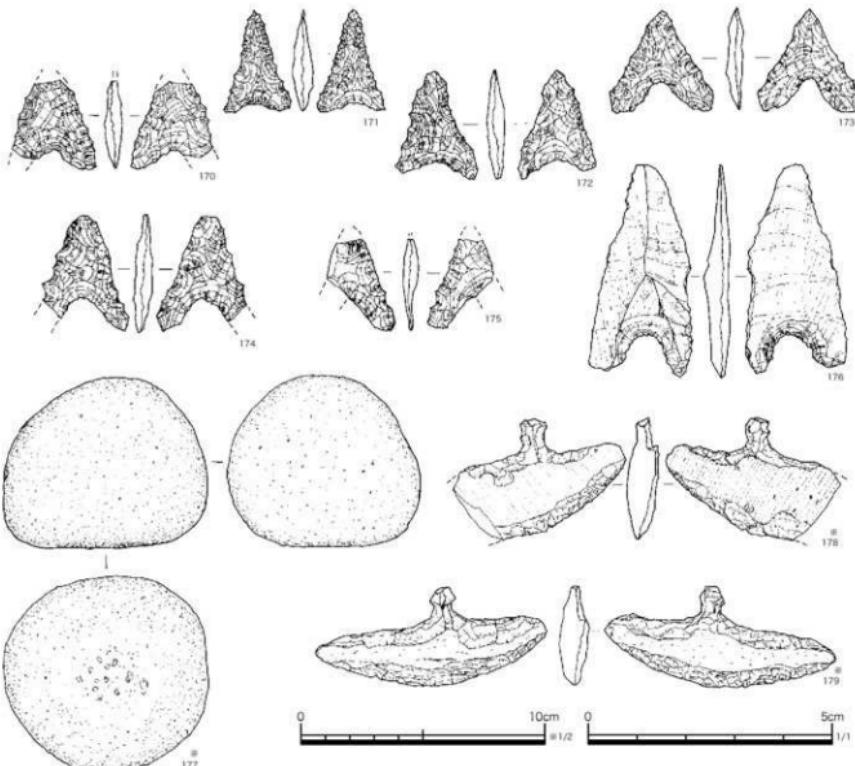


Fig. 22 2区出土遺物実測図 11 (1/2 · 1/1)

なるが便宜上数値の小さいG 3579からおこなう。G 3579とG 3678は作業期間の関係からグリッド全面を掘削調査することができなかった。G 3579では石鏃140を含む剥片などの石器が32点、土器片20点、計52点の遺物が出土した。G 3580では石斧141、石鏃142を含む剥片などの石器が11点、土器12点、計23点の遺物が出土した。G 3678では7点の石剥片、23点の土器片、計30点の遺物が出土した。G 3679では黒曜石、安山岩の剥片46点、土器57点、計103点の遺物が出土した。G 3680では黒曜石、安山岩の剥片20点、38点の土器片、計58点の遺物が出土した。G 3779では143の黒曜石製石鏃、144の安山岩製石匙を含む剥片などの石器が49点、土器124点、計173点の遺物が出土した。G 3780では145、146、148～152までの黒曜石、安山岩製石鏃7点を含む剥片など124点、土器片192点、計316点の遺物が出土した。G 3879では153の安山岩製槍先、154～158までの黒曜石、安山岩製石鏃を含む剥片など81点、土器片168点、計249点の遺物が出土した。G 3880では159～169までの黒曜石、安山岩製石鏃11点を含む剥片などの石器が81点、土器片168点、計436点の遺物が出土した。2区では、合計1,440点の石器や土器の出土ポイントの記録をおこなった。また、表土剥時や遺構検出作業中に170～179の遺物をはじめとする多くの石鏃、石匙、敲石、黒曜石剥片、安山岩剥片や土器片が出土した。

2区出土器観察表

遺物 番号	グラン ド	種類	地土	性状	内面(色調・側面)	外観(色調・裏面)	備考	X=65.00 E=+3	Y=8.00 E=-3	レバ(M)
021 3579	深鉢	良 石美、長石、雲母含む	良好	黒	ナデ	鈍い橙 ナデ	後期	352.8	796.3	47.87
022 3579	深鉢(粗製)	石英、黄石、角閃石含む	良好	浅黄	貝殻条痕	浅黄 橙 貝殻条痕 アバタ状小孔	晩期	352.6	796.4	47.85
023 3579	深鉢(半精製)	良 石美、長石、雲母含む	良好	黒褐	丁寧なナデ	黒褐 ナデ	後~晩期	356.7	795.0	47.74
024 3579	深鉢(粗製)	良 石英、長石、貝殻条痕	良好	黒褐	貝殻条痕	明黄褐 貝殻条痕	後~晩期	357.4	795.3	47.77
025 3580	深鉢	石美、長石含む	良好	褐	ナデ	鈍い黄褐 横位貝殻条痕	早期 条曲文土器	351.8	808.8	47.72
026 3580	深鉢	石美、長石、雲母含む	良好	浅黄褐	ナデ	黒褐 タテ 貝殻条痕 審美的波状凹凸あり	早期 条曲文土器	352.1	809.0	47.61
027 3678	深鉢(粗製)	良 石英、長石含む	良好	鈍い黄褐	貝殻条痕	橙 貝殻条痕 波状文	晩期	369.0	787.3	47.68
028 3678	鉢(精製)	良 石英、長石含む	良好	灰黄	ナデ	黒褐 条痕→ナデ 口縁部はミガキ	晩期 波状口縁	365.5	788.6	47.63
029 3679	鉢(半精製)	良 石美、長石なく含む	良好	灰黄	ミガキ	鈍い黄褐 上 ナデ 下 貝殻条痕	晩期	369.2	792.2	47.72
030 3679	浅鉢(精製)	良 石美、長石僅かに含む	良好	黒	ミガキ	黒 ミガキ	晩期 黒川式	368.4	796.3	47.72
031 3679	浅鉢(精製)	良 砂少ない	良好	灰黄褐	ミガキ	黒 ミガキ	晩期 黒川式	367.7	795.1	47.74
032 3679	深鉢(粗製)	石美、長石、雲母多い	良好	鈍い黄	ナデ	鈍い黄褐 ナデ	晩期	361.0	793.2	47.78
033 3679	小型浅鉢(精製)	良 磨かい石美、黄石、雲母	良好	鈍い黄褐	ミガキ	鈍い黄褐 ミガキ	晩期 黒川式 南北限界付近 10.4cm 東西限界付近 11.5cm	361.1	795.7	47.68
034 3679	鉢(精製)	良 磨 がほんとどき合ない	良好	鈍い橙	ナデ	鈍い橙 ナデ	晩期 黒川式	364.8	798.2	47.77
035 3679	浅鉢形土器	石美、砂の細い、中空を手塑入	良好	黒褐色	口縁部側方向の丁寧なアバタ調整	黒褐色 口縁部横方向の丁寧なアバタ調整	晩期 黒川式	369.5	797.4	47.69
036 3679	深鉢	石英、長石、金雲母、 貝殻のやわらかさで松子を 多量に混入	良好	灰褐色		黒褐色(黒色が強い)	晩期 黒川式	369.5	797.4	47.69
037 3680	深鉢	良 石美、長石含む、角閃石多い	良好	浅黄	ナデ	暗赤 ナデ #4mm厚木片剥取 刀刃な施文	早期 柏原式	361.2	809.3	47.82
038 3680	深鉢(粗製)	石美、長石、角閃石含む	良好	黒褐	貝殻条痕→ナデ	黒褐 貝殻条痕	晩期	365.7	801.0	47.70
039 3779	鉢(精製)	良 石美、長石なく含む	良好	黒褐	ミガキ	黒褐 ミガキ	晩期 古開~黒川式	376.7	791.5	47.63
040 3779	深鉢(粗製)	石美、長石、角閃石含む	良好	鈍い黄褐	ナデ	橙 付貝殻条痕 口縁上端 ナデ→波状	晩期	373.3	790.7	47.66
041 3779	浅鉢	石美、長石含む	良好	赤褐	ナデ	赤褐 ナデ 巴線	晩期 古開式	372.0	795.8	47.76
042 3779	鉢(半精製)	石美、長石、角閃石含む	良好	鈍い黄褐	ナデ	赤褐 貝殻条痕→ナデ	晩期	372.4	795.2	47.78
043 3779	鉢(半粗製)	石美、長石多い	やや不良	浅黄		赤褐 巴線	晩期 古開式	374.8	795.5	47.71
044 3779	深鉢(粗製)	石美、長石多い	良好	黑	ナデ	黑褐 貝殻条痕	晩期	373.5	798.4	47.66
045 3779	深鉢	石美、貝殻含む角閃石立つ	良好	灰	77 鋼鑄 諸押款 乾かせ記	灰褐 口縁外端 山形印文 前7~8mm 后3mm	早期 押型文土器	375.8	797.2	47.61
046 3779	深鉢	石美、長石、角閃石含む	良好	灰褐	ナデ	鈍い黄褐 小山形押型文 8×3mm	早期 押型文土器	375.8	797.2	47.61
047 3779	深鉢(半粗製)	石美、長石含む	良好	黑	ナデ→ハラナデ~ミガキ	黒褐 貝殻条痕→ナデ→ハラナデ	晩期	378.4	797.3	47.67
048 3779	深鉢	石美、貝殻含む角閃石立つ	良好	黑	ナデ	鈍い黄褐 山形押型文 8×3mm	早期 押型文土器	378.9	798.2	47.43
049 3779	深鉢(粗製)	石美、長石多い	良好	褐	貝殻条痕	橙 貝殻条痕	晩期 黒川式	376.9	795.5	47.49
050 3779	鉢(精製)	石美、長石多い	良好	黑	ミガキ	鈍い黄褐 ミガキ 巴線	晩期 古開式	373.3	797.6	47.53
051 3779	深鉢(粗製)	石美、貝殻含む、重ね付	良好	黑褐	貝殻条痕	鈍い黄褐 貝殻条痕→ナデ	晩期	373.6	797.1	47.39
052 3780	深鉢	石美、長石の細かい 粒子を混入。 全体に良質である。	良好	黒褐色		黒褐色 口縁部双刃 前方の細い、切削条痕。 条痕間に細いミズヌれ状の突起	晩期 黒川式未	377.0	802.7	47.65
053 3780	深鉢	石美、長石多い	良好	黒褐	燃文	褐 口唇部目文	早期 燃文式	377.8	803.5	47.68
054 3780	深鉢	石美、長石含む	良好	浅黄褐	ナデ	鈍い黄褐 ナデ	早期 無文	378.2	803.3	47.48
055 3780	深鉢	石美、長石含む	良好	黑	貝殻条痕	黒褐 貝殻条痕 口唇部目文	晩期 黒川式未	378.3	803.0	47.54
056 3780	深鉢(粗製)	石美、細かな貝殻を重ね付	良好	灰褐色	黒褐色 下半横方向へ一皮状 剥離→燃文 内外燃文剥離剥離 外 動物骨付	灰褐色 貝殻条痕(波状) 剥離部分にスリ付着	晩期	378.6	802.7	47.64
057 3780	深鉢(粗製)	石美、長石少ない	良好	鈍い黄褐	貝殻条痕	鈍い黄褐 貝殻条痕	晩期 黒川式	379.2	802.3	47.65
058 3780	深鉢	石美、長石、金雲母の 細かい粒子を混入。 精製され良質	良好	黄~灰褐色	僕 一方の傾向の やや粗い直線条痕	東褐色 貝殻条痕(波状) アルミニウム付着	晩期 黒川式	379.2	802.6	47.65
059 3780	深鉢(粗製)	石美、長石含む	良好	褐	貝殻条痕	黒褐 貝殻条痕	晩期	378.9	803.0	47.67
060 3780	深鉢	良 石美~薄石底化、雲母立つ	良好	鈍い黄褐	ナデ	黒褐 貝殻条痕 口唇部刻目文	晩期 黒川式未	379.3	803.9	47.68
061 3780	鉢(半精製)	石美、長石少なく含む、精良	良好	鈍い黄褐	ミガキ	黒 貝殻条痕→ナデ	不明	379.1	804.4	47.69
062 3780	深鉢(粗製)	石美、長石多い	良好	鈍い黄褐		褐 貝殻条痕	後晩	373.4	805.4	47.73
063 3780	深鉢(粗製)	石美、長石含む	良好	黑	貝殻条痕 壓化物	黒褐 貝殻条痕	晩期	377.9	804.9	47.59
064 3780	深鉢(粗製)	石美、長石含む	良好	黒褐	貝殻条痕	黒褐 貝殻条痕	晩期	377.9	804.9	47.59
065 3780	深鉢(粗製)	石美、長石含む	良好	黄褐	貝殻条痕	黒褐 貝殻条痕	晩期	378.7	805.1	47.61
066 3780	深鉢(粗製)	石美、長石含む	良好	黒褐	貝殻条痕	黒褐 貝殻条痕	晩期	378.5	805.0	47.68
067 3780	深鉢(粗製)	石美、長石含む	良好	黒褐	貝殻条痕 壓化物	鈍い黄褐 貝殻条痕	晩期	378.2	805.0	47.66
068 3780	深鉢	石美、長石含む	良好	黒	貝殻条痕	黒褐 貝殻条痕 口唇部刻目文	晩期 黒川式未	377.9	805.0	47.57

古物番号	グリッド	種類	地土	構成	内面(色調・調査)	外面(色調・調査)	参考	X=56.000 E=1.4cm	Y=81.000 E=1.4cm	Z=1.4cm
069 3780 深跡		石英、長石含む	良好	暗褐色 貝殻条痕	鈍い黄褐色 貝殻条痕	晚期	378.2 805.8	47.64		
070 3780 深跡(粗製)		石英、長石含む	良好	黄灰 貝殻条痕	暗褐色 貝殻条痕→沈線文	晚期	372.8 807.9	47.65		
071 3780 深跡(粗製)		石英、長石含む	良好	暗褐色 貝殻条痕	褐 貝殻条痕→沈線文	晚期	372.8 808.1	47.67		
072 3780 深跡		細粒石英、長石含む	良好	暗褐色 貝殻条痕	暗褐色 貝殻条痕→沈線文	晚期	373.1 807.9	47.67		
073 3780 深跡		石英、長石、貝殻の細かい粒子を混入。精製され皮膜	良好	黒褐色 貝殻条痕	黒褐色 貝殻条痕→沈線文	晚期	373.2 808.0	47.66		
074 3780 深跡		石英、長石含む	良好	黒褐色 貝殻条痕	黒褐色 貝殻条痕→沈線文	早期	376.3 808.5	47.66		
075 3780 深跡		石英、長石含む	良好	赤褐色 貝殻条痕	黒褐色 貝殻条痕	晚期	372.6 809.1	47.66		
076 3780 深跡		粗石英、長石含む	良好	橙 貝殻条痕	赤褐色 貝殻条痕	晚期	370.7 809.4	47.58		
077 3780 深跡		粗石英、長石少なく含む	良好	黄褐色 貝殻条痕	浅褐色 貝殻条痕	晚期	371.1 809.5	47.62		
078 3780 深跡		粗石英、長石少なくなむ	良好	鈍い黄 貝殻条痕	鈍い黄 貝殻条痕	晚期	371.3 809.3	47.66		
079 3780 深跡		石英、長石、貝殻母、貝殻の粒子を混入。精製され皮膜	良好	赤褐色 貝殻条痕	黒褐色 スス付着 備-斜位の貝殻条痕	晚期	371.5 809.2	47.66		
080 3780 深跡		石英、長石、貝殻母の粒子を混入	良好	黒褐色 貝殻条痕	黒褐色 不定方向の貝殻条痕	晚期	371.2 809.5	47.56		
081 3780 深跡		石英、長石、貝殻母、貝殻の粒子を混入。全体に精製され皮膜	良好	黒褐色 口開き部はナチュラルな仕上げだが、部分的に平行ナチュラルな仕上げがある。黒褐色 貝殻条痕を加える。	黒褐色 口開き部はナチュラルな仕上げがあるが、部分的に平行ナチュラルな仕上げがある。黒褐色 貝殻条痕、スス付着	晚期	377.3 808.9	47.54		
082 3780 深跡(粗製)		粗石英、長石少なくなむ	良好	オーリーブ 黒 ナチュラル	黒褐色 貝殻条痕	晚期	377.5 809.1	47.63		
083 3780 脚(精製)		粗石英、長石含む	良好	黒 三ガキ	黒 三ガキ	晚期	377.8 808.9	47.63		
084 3780 深跡		石英、長石含む	良好	赤褐色 貝殻条痕	赤褐色 貝殻条痕	晚期	370.7 809.5	47.57		
085 3780 深跡		粗石英、長石含む	良好	鈍い黄褐色 貝殻条痕	鈍い黄 貝殻条痕	晚期	379.1 802.9	47.56		
086 3780 深跡		石英、長石、貝殻母のやや粗い粒子を混入。	良好	赤褐色 やや明るい 黒褐色 方向的の貝殻条痕	黒褐色 方向的の貝殻条痕一二次スス付着	晚期	379.5 802.9	47.51		
087 3780 深跡		石英、長石含む	良好	橙 貝殻条痕	橙 貝殻条痕 口唇部剥離目次	晚期	371.6 808.5	47.37		
088 3780 深跡		細石英、長石含む	良好	橙 貝殻条痕	赤褐色 貝殻条痕	晚期	374.3 808.6	47.27		
089 3780 深跡		粗石英、長石含む	良好	黒褐色 貝殻条痕	赤褐色 貝殻条痕	晚期	377.8 804.8	47.34		
090 3780 深跡		粗石英、長石含む	良好	黒褐色 貝殻条痕	黒褐色 貝殻条痕	晚期	378.2 804.7	47.22		
091 3780 深跡		粗石英、長石含む	良好	黒褐色 貝殻条痕	黒褐色 貝殻条痕	晚期	378.9 802.7	47.40		
092 3879 脚(半精製)		石英、長石、輝石含む	良好	鈍い黄褐色 ナチュラル	黒 赤褐色	晚期	387.0 791.6	47.43		
093 3879 深跡(半粗製)		石英、長石、輝石含む	良好	鈍い黄褐色 貝殻条痕→ナチュラル	赤褐色 貝殻条痕	晚期	387.0 795.8	47.53		
094 3879 脚(精製)		良 砂粒ほとんど含まない	良好	黒 三ガキ	黒褐色 三ガキ	晚期	386.2 796.3	47.59		
095 3879 脚(精製)		細石英、長石含む	良好	暗褐色 ミガキ	暗褐色 ミガキ	晚期	385.4 792.1	47.59		
096 3879 脚(精製)		粗石英、長石少なくなむ	良好	黒~灰暗 三ガキ	暗褐色~鈍い黄 三ガキ	晚期	385.5 791.5	47.49		
097 3879 脚(精製)		良 石系、長石わざわざ含む	良好	黄褐色 ミガキ	鈍い黄 三ガキ	晚期	385.4 791.4	47.60		
098 3879 脚(精製)		細石英、長石含む	良好	黒褐色 ミガキ	暗褐色 ミガキ 下方に張り出しが起	晚期	385.2 791.7	47.60		
099 3879 脚(精製)		石英~輝石含む	良好	鈍い黄褐色 ミガキ	鈍い黄 ミガキ	晚期	385.2 791.2	47.65		
100 3879 脚(精製)		石英、長石含む	良好	黒褐色 貝殻条痕→ミガキ	黒褐色 貝殻条痕	晚期	385.1 792.5	47.59		
101 3879 深跡(半粗製)		石英、長石含む	良好	橙 貝殻条痕→ナチュラル	橙 貝殻条痕→ナチュラル	晚期	384.6 792.6	47.47		
102 3879 深跡(粗製)		石英、長石多い、輝石含む	良好	鈍い黄褐色 ナチュラル	鈍い黄褐色 貝殻条痕	晚期	383.9 791.8	47.58		
103 3879 深跡		石英、長石、輝石含む	良好	暗褐色 ミガキ	暗褐色 ミガキ 下方に張り出しが起	晚期	384.6 796.6	47.44		
104 3879 深跡(粗製)		細石英、長石、輝石含む	良好	暗褐色 貝殻条痕	明褐色 貝殻条痕	晚期	381.7 797.2	47.51		
105 3879 脚(半精製)		石英、長石含む	良好	黒 三ガキ	黒褐色 貝殻条痕→ナチュラル	晚期	382.5 797.3	47.63		
106 3879 深跡(精製)		重良 砂粒ほとんど含まない	良好	黒 三ガキ	黒褐色 三ガキ	晚期	386.5 797.6	47.58		
107 3879 脚		重良 石英、輝石少なく含む	良好	鈍い黄褐色 ミガキ	黒~鈍い黄褐色 ミガキ	晚期	385.7 791.6	47.38		
108 3879 浅跡(精製)		細石英、輝石含む	良好	黒 三ガキ	鈍い黄褐色 ミガキ	晚期	385.7 791.6	47.38		
109 3879 浅跡(精製)		良 砂粒ほとんど含まない	良好	灰黃褐色 ミガキ	鈍い黄褐色 ミガキ	晚期	387.3 791.6	47.37		
110 3879 深跡		石英、長石多い	良好	鈍い黄褐色 ミガキ	黒褐色 貝殻条痕→平行沈線文	晚期	385.9 799.3	47.19		
111 3879 浅跡(精製)		重良 石英わざわざに含む	良好	鈍い黄褐色 ミガキ	橙 ミガキ	晚期	387.3 791.3	47.07		
112 3880 脚		石英、長石含む	良好	鈍い黄褐色 ナチュラル	暗褐色 ナチュラル	晚期	388.1 805.8	47.30		
113 3880 深跡		石英、長石多い	良好	鈍い黄褐色 貝殻条痕	黒褐色 貝殻条痕	晚期	384.8 802.3	47.55		
114 3880 脚(精製)		良 砂岩ほとんど含まない	良好	暗褐色 良好	黒褐色~黒 ミガキ	晚期	386.1 806.9	47.44		
115 3880 深跡		石英、長石多い	良好	黒 ナチュラル	黒褐色 ナチュラル	早期	382.5 808.3	47.38		
116 3880 深跡		石英、長石含む	良好	黄褐色 貝殻条痕	暗褐色 黃褐色 貝殻条痕 口唇部剥離目次	晚期	381.6 809.5	47.54		

遺物番号	グリッド番号	種類	胎土	焼成	内面(色調・測量)	外面(色調・測量)	参考	X=56.000 C+側	Y=56.000 C+側	Z=56.000 C+側
117	3880	深鉢	石英、長石含む	良好	橙 ナゲ	純い黄 貝殻条痕 フバタ状小孔あり	晩期	380.9	808.6	47.35
118	3880	鉢(精製)	良 石英、長石少なく含む	良好	黄灰 ミガキ	黒褐 ミガキ	晩期	380.9	807.4	47.64
119	3880	鉢(精製)	良 砂粒ほんと含まない	良好	暗灰黄 ミガキ	純い黄褐 ミガキ	晩期	380.6	808.5	47.45
120	3880	深鉢	石英、長石、輝石含む	良好	暗褐 貝殻条痕	暗褐 貝殻条痕	晩期	382.9	802.4	47.41
121	3978	深鉢	石英、長石含む	良好	純い黄褐	純い橙 ナゲ	平均 井笠文 SD-OI下 地山削出地土	—	—	—
122	3978	深鉢	石英、長石、雲母含む	良好	純い黄褐 ナゲ	純い黄褐 小椎円押型文 φ3~4mm	平均 井笠文 SD-OI下 地山削出地土	—	—	—
123	3978	深鉢	石英、長石、雲母含む	良好	純い黄褐 ナゲ	純い黄褐 ナゲ 小椎円押型文 φ=4mm	平均 井笠文 SD-OI下 地山削出地土	—	—	—
124	3978	深鉢	石英、長石、雲母含む	良好	純い黄褐 ナゲ	純い黄褐 ナゲ 小椎円押型文 φ=4mm	平均 井笠文 SD-OI下 地山削出地土	—	—	—
125	表探し	深鉢	粗 石英、長石多い	良好	明褐	暗褐 漆糸文	早期 黑牛文 神型文と同時期	—	—	—
126	表探し	深鉢	石英、長石含む	良好	黑褐	褐色 貝殻条痕 口脣部刻目文	晩期 黒川式末	—	—	—
127	表探し	深鉢	石英、長石含む	良好	純い橙 貝殻条痕	純い黄褐 貝殻条痕	晩期 粗製	—	—	—
128	表探し	深鉢	石英、長石、角閃石が混入	良好	灰黄褐	貝殻条痕	黒 粗いミガキ 口唇部指頭文	—	—	—
129	表探し	深鉢	石英、長石、雲母含む	良好	黒	頭~乳頭 離乳器ナゲ	頭~乳頭 離乳器ナゲ	—	—	—
130	表探し	深鉢	石英、長石含む	良好	黒褐	明褐 貝殻条痕 フバタ状小孔	晩期	—	—	—
131	表探し	深鉢	石英、長石、雲母含む	良好	黃褐	ナゲ 口縁刻突文	早期 桜原式	—	—	—
132	表探し(半精製)	石英、長石、雲母含む	良好	灰黄	ミガキ	黒 ミガキ 凹線	晩期 黒川式末	—	—	—
133	表探し	深鉢	石英、長石、雲母含む	良好	純い黄褐	貝殻条痕	純い黄褐 貝殻条痕	—	—	—
134	表探し	深鉢	石英、長石、雲母含む	良好	黒褐	月般条痕	純い黄褐 貝殻条痕 口唇部刻目文	—	—	—
135	表探し	深鉢	石英、長石含む	良好	純い黄褐	貝殻条痕	純い黄褐 貝殻条痕 口唇部刻目文	—	—	—
136	表探し(半精製)	石英、長石含む	良好	褐灰	ミガキ 沈底文	暗褐 貝殻条痕	晩期 黒川式末	—	—	—
137	表探し	深鉢	石英、長石、雲母含む	良好	暗褐	貝殻条痕	褐色 貝殻条痕	—	—	—
138	表探し	深鉢	石英、長石、雲母混入	良好	明赤褐	ナゲ	純い橙 貝殻条痕 口唇部細刻目文	経 井笠文 晩期	—	—
139	表探し	深鉢	石英、長石、輝石多い	良好	暗褐	ナゲ	純い黄褐 椎円押型文φ=4x6mm	早期 押型文	—	—

## 2区出土石器観察表

遺物番号	グリッド番号	種類	石材	重量(g)	X=56.000C+側	Y=56.000C+側	Z=56.000C+側	参考
140	3579	石鏡	黒曜石	0.7	3585	794.8	47.68	
141	3580	石斧	玄武岩	215.9	352.2	808.9	47.59	
142	3580	石鏡	黒曜石	2.1	356.3	806.9	47.74	剥離面既
143	3779	石鏡	黒曜石	1.1	374.3	791.0	47.77	剥離面既
144	3779	石剣	安山岩	20.6	373.3	792.5	47.74	
145	3780	石鏡	黒曜石	0.9	377.1	801.3	47.69	
146	3780	石鏡	安山岩	1.4	377.8	802.9	47.67	
147	3780	石剣	安山岩	14.4	374.7	805.1	47.62	
148	3780	石鏡	安山岩	0.8	378.8	804.2	47.47	
149	3780	石鏡	黒曜石	0.9	375.5	805.8	47.54	
150	3780	石鏡	黒曜石	3.9	373.3	804.2	47.50	剥離面既
151	3780	石鏡	安山岩	10.5	375.4	807.1	47.63	剥離面既
152	3780	石鏡	黒曜石	0.7	374.1	808.8	47.37	剥離面既
153	3879	尖頭器	安山岩	2.6	386.3	799.1	47.29	
154	3879	石鏡	黒曜石	1.3	386.3	798.0	47.57	
155	3879	石鏡	安山岩	2.8	384.3	797.7	47.41	
156	3879	石鏡	安山岩	2.5	383.2	798.0	47.53	
157	3879	石鏡	黒曜石	0.9	384.6	799.2	47.30	剥離面既
158	3879	石鏡	黒曜石	3.2	382.1	798.6	47.43	剥離面既
159	3880	石鏡	黒曜石	0.6	385.5	803.7	47.50	
160	3880	石鏡	黒曜石	0.9	386.0	806.6	47.23	
161	3880	石鏡	黒曜石	0.6	383.5	804.1	47.59	
162	3880	石鏡	黒曜石	1.8	383.2	803.3	47.50	
163	3880	石鏡	黒曜石	1.2	383.2	803.2	47.50	
164	3880	石鏡	黒曜石	1.1	381.9	805.5	47.62	剥離面既
165	3880	石鏡	黒曜石	0.8	382.6	806.8	47.57	
166	3880	石鏡	安山岩	1.5	381.3	804.0	47.59	
167	3880	石鏡	安山岩	0.8	382.3	803.5	47.50	
168	3880	石鏡	安山岩	1.0	385.5	805.3	47.32	

遺物番号	グリッド番号	種類	石材	重量(g)	X=56,000C+幅	Y=-61,000C-幅	レーベル(m)	備考
169	3880	石鏡	黒曜石	1.8	386.7	801.7	47.33	
170	表探	石鏡	黒曜石	0.9	—	—	—	
171	表探	石鏡	黒曜石	0.7	—	—	—	
172	表探	石鏡	黒曜石	0.8	—	—	—	
173	表探	石鏡	黒曜石	0.7	—	—	—	
174	表探	石鏡	黒曜石	0.9	—	—	—	
175	表探	石鏡	黒曜石	0.5	—	—	—	
176	表探	石鏡	黒曜石	2.1	—	—	—	剥離面残
177	表探	鉱石	砂岩	827.2	—	—	—	
178	表探	石鉗	安山岩	27.5	—	—	—	
179	表探	石鉗	安山岩	24.8	—	—	—	

#### 4.3 区の調査

##### 調査概要

この調査区は、調査2区の南に位置しており、今回の事業地の南端にあたる。農道敷設と水路の掘削工事をおこなう計画のため、調査区として設定した。現況は水田で、調査地中央部に南北方向の水路があるため、調査区を東西二つに分け作業をおこなった。東側の調査区(91 m<sup>2</sup>)では、地山である黄褐色シルト層が褐色から灰白色まで変色しており、西側に向か浅い谷状に落ち込んでいる。谷内は暗灰黄色砂質土、黒灰色砂質土、灰黄色細砂などで埋まっている。西側調査区(102 m<sup>2</sup>)では、東側に向か浅い谷状に落ち込んでおり、谷自体の幅は約30mである。現況水路の方向は、かつての谷の方向と一致している。遺構検出面は、2区でみられた黄褐色シルト層でおこない、ピット状の遺構を複数検出した。ピット状遺構において、掘削時に遺物の出土したものには301から番号を付し、遺物を取り上げた。合計4基の遺構から遺物が出土した。

調査終了後、西側調査区西側で深掘トレンチによる、遺構検出面である黄褐色シルト層の下位状況の確認作業をおこなった。基本層序は次のとおりであった。遺構検出面上から約50cmの黄褐色～灰褐色シルト層の下は、約50cmの灰褐色シルトと拳大礫混じり層、その下100cmまでは約50～80cmの大型花崗岩礫層であった。このトレンチ調査において、遺構、遺物は確認されなかった。

##### 遺構と遺物

東側調査区と西側調査区の東寄りで検出された遺構は、平面不定形の窪み状を呈するもので、柱痕跡を含め遺物等も出土していない。谷部下位の覆土が砂質土から細砂の水成堆積であることから、常に水が流れる谷状を呈していたと考えられる。西側調査区の標高48.2mより高所の部分には、遺物が出土するピット状遺構がみられた。301は、X = 56,285.0 Y = -61,823.2に位置しており、平面は直径約30cmの楕円形を呈している。時期不明であるが、赤焼土器の口縁部小破片1点が出土している。302は出土遺物取り上げ後の洗浄作業により人为的遺物でないことが判明したため欠番とする。303はX = 56,283.9 Y = -61,819.8に位置しており、平面は長軸60cm、短軸30cmの長楕円形を呈している。残存する深さは9cmであり、2.5gの透明度のある黒曜石剥片が1点出土した。304はX = 56,286.9 Y = -61,821.0に位置しており、最大幅60cmの溝状を呈している。残存する深さは8cmであり、22.02gの透明度のある黒曜石剥片が2点出土した。305はX = 56,287.1 Y = -61,819.8に位置しており、平面は長軸100cm、短軸40cmの長楕円形を呈している。残存する深さは13cmであり、詳細な時期は不明であるが繩文土器の小破片が1点出土している。その他、遺構面精査時に外器面を条痕で調整する土器片など、縄文時代遺物が表探された。

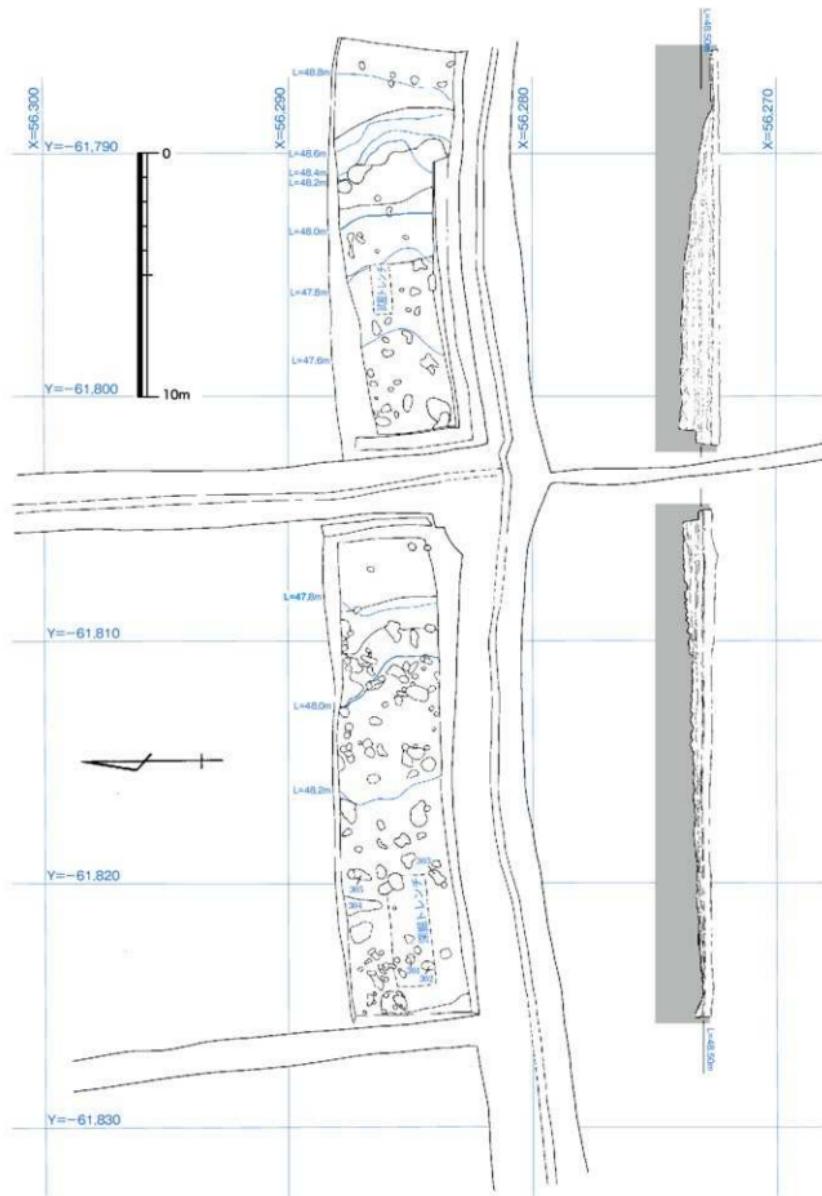


Fig.23 3区造構配置図 (1/200)

## 5.4 区の調査

### 調査概要

この調査区は、調査1区の北側に位置しており、内野熊山遺跡の北端にあたる。現況は水田で、北側の田面レベルは1m以上下がっており、地形的にも調査区北側は谷に向かって急激に落ちていくものと考えられる。農道敷設と田面の切り下げ掘削工事をおこなう計画のため、調査区として設定した。三角形を呈する田面が2面にわたっていることから、調査区を東西二つに分け作業をおこなった。東側調査区(315 m<sup>2</sup>)では、地山である黄褐色シルト～砂質土層上に小型土坑状の遺構がみられ、調査区西寄りには粗砂を覆土とし、蛇行しながら北流する溝状の遺構が確認された。西側調査区(191 m<sup>2</sup>)では、黄褐色砂質土層にて遺構検出作業をおこなったが、明瞭な遺構は確認されなかった。しかし、各区でみられる安定した面をもつ黄褐色シルト層が比較的良好に遺存しており、縄文時代遺構の存在が考えられているため、集石遺構、焼土面の確認を目的にグリッドを設定し調査した。調査区内に世界測地系座標を基準とする10m×10mのグリッドG5076を設定し、遺構検出面である黄褐色シルト～砂質層はスコップによる掘削調査をおこなった。

調査終了後、G5076の東側隣接地で深掘トレンチによる、遺構検出面である黄褐色シルト層の下位状況の確認作業をおこなった。基本層序は次のとおりであった。遺構検出面上から約50cmの黄褐色砂質土層、約30cmの黄灰褐色砂層、約50cmの灰黄色砂層、約40cmの拳大疊層、約20cmのマンガンが顯著に沈着した疊層、約50cmの黄褐色粗砂層、約30cmの灰褐色粘土層、黄褐色砂疊層であった。遺構検出面から約270cm掘下げたが、このトレンチ調査において、遺構、遺物は確認されなかった。

### 遺構と遺物

東側の調査区では、比較的安定している黄褐色シルト層が耕作土、盛土、粗砂層を剥いた直下である標高約45.6mで確認され、遺構検出作業をおこなった。その結果、調査区東側では長軸約1.4m、短軸約1mの土坑状の遺構が複数検出された。遺存する深さは10～20cmであり、茶褐色粘土と粗砂混じり土を覆土としている。出土遺物は、小破片遺物を含めて出土しなかった。調査区西側では、蛇行しながら北流する溝状の遺構がみられた。覆土は黄灰色粗砂であり、その上層の黄褐色粗砂を含め粗砂層は調査区東側にかけ広く全体を覆っている。遺物が出土していないためその時期は不明であるが、この粗砂を押し流し堆積させるほどの大規模な洪水がおこったことを示している。

西側調査区は、上述したように安定している黄褐色シルト層はみられるものの、遺構の遺存は確認されなかった。グリッド調査ではG5076を設定し掘削作業をおこないNo.1～No.3の3点の遺物が出土した。No.1は器壁厚約8mmの土器片である。焼成はやや不良で、胎土には1～2mmの石英を少量含んでおり、色調は黄茶褐色を呈している。器面は荒れており、調整は不明である。No.2は土器片と思われ記録後取り上げたが、後日洗浄した際自然石と判断されたため欠番とする。No.3は器壁厚約5mmの浅鉢の口縁部小破片である。焼成は良好で、胎土には1mm程度の石英を少量含んでおり、色調は暗茶褐色を呈している。口縁内側には段を有しており外器面には条痕がみられるが、内器面の調整は不明である。

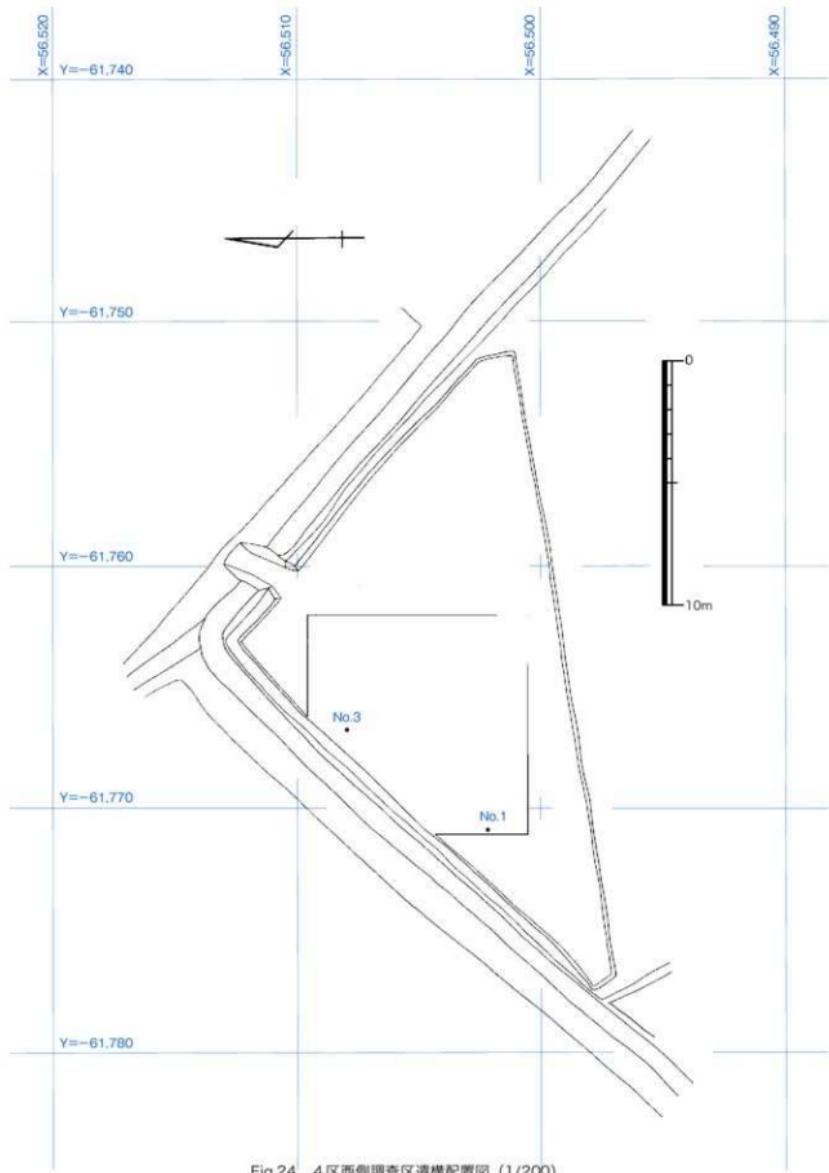


Fig.24 4区西侧調査区遺構配置図 (1/200)

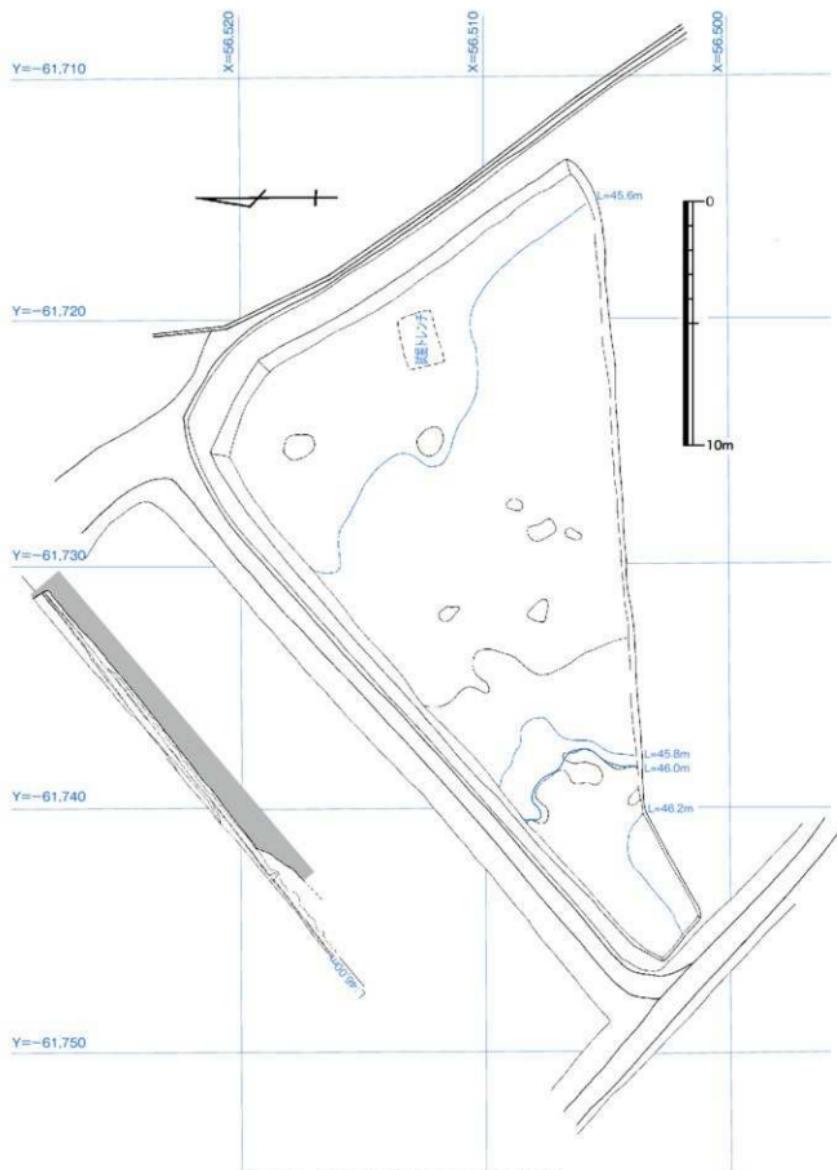


Fig.25 4区東側調査区遺構配置図 (1/200)

## 6. まとめ

今回の調査においては、良好な遺構の遺存は確認されなかったが、多くの縄文時代期の石器、土器が出土した。その所属時期は大きく早期、後期、晩期の3時期がみられ、早良平野最奥部においては特に早期遺物の出土状況に関心が集まっていた。埋没谷を挟んだ北側の松木田遺跡では、福岡市内の沖積平野としては早期の遺物がまとまって出土しており、松木田遺跡の南側に位置する内野熊山遺跡内においても当該期遺構の存在が想定されていた。しかし、遺物は出土したが遺構自体は確認されなかった。出土遺物は縄文時代遺物が主体をなしており、今回の調査地は縄文時代の早期、後期、晩期と断続的に営まれた居住域の縁辺部にあたるものと考えられる。遺跡周辺の地勢は南側から北に向けて緩やかに傾斜していることから、縄文時代早期の居住域は北側の松木田遺跡だけにとどまらず、分布域は調査地の南側近接地にも広がることを明らかとした今調査の成果には大きな意義がある。今後、内野熊山遺跡内の縄文時代早期の遺構の検出を期待したい。



ph. 調査前状況

The background image is a high-angle, black and white aerial photograph of a city at night. The city is densely packed with buildings, and their lights create a grid-like pattern across the urban sprawl. In the center, there is a large, brightly lit industrial or commercial complex. Beyond the city, a range of mountains is visible under a dark sky.

PLATE  
( 図 版 )





1) 1区全量 (東から)



2) 調査前風景 (北西から)



3) 調査前風景 (西から)



4) 表土剥風景 (西から)



5) 造構検出作業風景 (北西から)

PL.2



1) 下層確認トレンチ 1 挖削状況（東から）



2) 下層確認トレンチ 2 挖削状況（北から）



3) O 1 7 石斧出土状況（南から）



4) 発掘調査作業風景（西から）



5) 造構掘削状況（東から）



6) 造構掘削状況（南から）



7) G 4 1 7 7 挖削状況（北から）



8) グリッド調査掘削状況（西から）



1) 2区掘削状況（南から）



2) 遺構検出面精査状況（北西から）



3) SD-O1掘削状況（北から）



4) G3579掘削状況（東から）



5) G3580掘削状況（西から）



1) G 3678 挖削状況（西から）



2) G 3679 挖削状況（東から）



3) G 3680 挖削状況（西から）



4) G 3779 挖削状況（東から）



5) G 3780 挖削状況（西から）



6) G 3879 挖削状況（東から）



7) G 3880 挖削状況（西から）



8) 調査区埋め戻し状況（南から）



1) 3区東側調査区遺構検出状況（西から）



2) 3区西側調査区遺構検出状況（東から）



3) 東側調査区作業風景（東から）



4) 西側調査区遺構検出状況（西から）



5) 東側調査区南壁土層堆積状況（北から）



6) 下層確認掘削状況（南西から）



1) 4区東側調査区掘削状況（西から）



2) 東側調査区調査状況（南から）



3) 東側調査区調査風景（西から）



4) 東側調査区溝状透構断面状況（南東から）



5) 4区西側調査区掘削状況（南東から）



6) 西側調査区掘削状況（南西から）

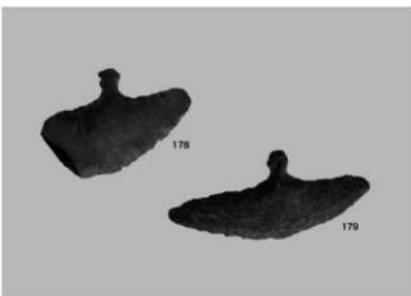
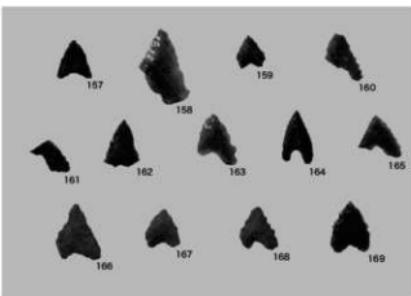
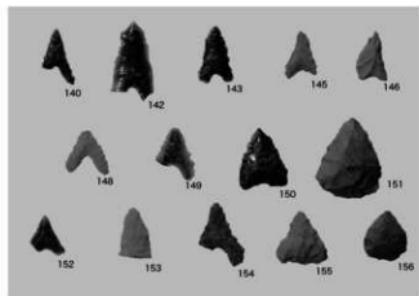
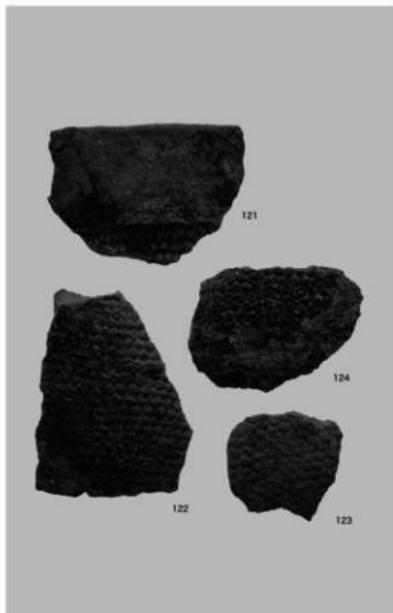


7) G5076掘削状況（東から）



8) 下層確認掘削状況（南から）





## 報告書抄録

ふりがな	うちのくまやま 1							
書名	内野熊山 1							
副書名	-内野熊山遺跡第1次調査の報告-							
巻次	長峰地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 2							
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第1205集							
編著者名	加藤隆也							
編集機関	福岡市							
発行機関	福岡市教育委員会							
発行年月日	2013年3月22日							
作成法人ID	40135							
郵便番号	810-8621							
所在地	福岡市中央区天神1-8-1							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
うちのくまやまいせき 内野熊山遺跡	福岡市早良区早良2丁目地内	40130	0791	33°30'24"	130°20'07"	20100916～ 20110125	3,149m <sup>2</sup>	記録保存 調査
種別	主な時代	遺跡概要			特記事項			
集落遺跡	縄文時代早期～ 縄文時代晚期	縄文時代遺物が粗密をもって 散布	市内の沖積平野では稀少な縄文時代早期をはじめとする 各期の縄文時代土器、石器が出土					



海側より調査区を望む

---

長峰地区土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 2

## 内野熊山1

— 内野熊山遺跡第1次調査の報告 —

---

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1205集

2013(平成25)年3月22日

発行 福岡市教育委員会  
福岡市中央区天神1丁目8番1号  
印刷 高松印刷有限会社  
福岡市東区松島1丁目4-10

---



